

第11期スマートクルーズアカデミーレポート



平成29年5月12日~17日

＜舞鶴＝金沢＝境港＝釜山＝博多＝舞鶴

5泊6日at コスタ・ネオロマンチカ＞

主催：大阪大学国際公共政策研究科赤井研究室

共同企画：全国クルーズ活性化会議

クルーズ・アカデミーの概要

第11期 スマート・クルーズ・アカデミー(2017年第1弾) ＜舞鶴＝金沢＝境港＝釜山＝博多＝舞鶴 5泊6日 at コスタ・ネオロマンチカ＞

【コスタ・ネオロマンチカ】



- 乗客定員：1,800人
- 就航：1993年
(2012年改装)
- 総トン数：57,150トン
- 全長：220.6m
- 全幅：30.8m
- 巡航速度：18.5ノット

【行程】

No.	日時	寄港地	No.	日時	寄港地
1日目	5/12(金)	舞鶴	4日目	5/15(月)	釜山(韓国)
2日目	5/13(土)	金沢	5日目	5/16(火)	福岡
3日目	5/14(日)	境港	6日目	5/17(水)	舞鶴

スマートクルーズアカデミーの趣旨

★学生の論理的思考向上の場

船上でしか味わえない、見渡す限り何も無く、それぞれが集中してやりたいことに打ち込める洋上の素晴らしい環境で、国際関係や地域発展についての社会課題について議論し、船内、寄港地にて国際感覚のより一段の向上を図る。

★クルーズ振興に向けた新たなマーケットニーズ構築の場

大学生がクルーズを体験し、若い世代からの視点で、将来のクルーズマーケットを熟成する。体験を踏まえて、日本の港湾戦略、寄港地の分析、日本の観光のあり方を議論し、自由に事業・政策提案する。

■ INDEX

第1部<乗船前と乗船時の感想>	1
(1) 概要を知る前のクルーズへのイメージ	1
(2) 事前のクルーズ説明会他でクルーズの概要を知った!	3
(3) 申し込み後、乗船日前夜の感想	6
(4) クルーズ客船が目の前に見えた!大きさに驚きの連続。期待感が膨ら む	8
(5) 乗船直後の感動	10
第2部<クルーズ船>	13
(1) 船内施設(ハード面)の感想(船内施設・施設のレイアウトなど)	13
(2) 船内サービス(ソフト)の感想(食事内容(レストラン・ルーム・カフ ェ・サービス・オペレーション(キャビン清掃、ホテルレセプションサ ービス、カジノ、その他船内の各部門オペレーション)	16
(3) 船内SHOW,エンターテイメントの感想(船内鑑賞イベント全般、プロダ クションショー)	18
(4) 船内スポーツ・体験施設・内容の感想(ジムなど)・体験型イベント(ダ ンスPARTY) など))	21
第3部 <各港での対応及び魅力>	24
(1) 乗船・下船港(舞鶴)での感想(港・ターミナルの施設評価、乗下船時 対応の感想など)	24
(2) 舞鶴港の感想(視察ツアー、寄港地の魅力)	26
(3) 金沢港の感想(乗船下船時対応の感想、港地の魅力)	29

(4) 境港港の感想（乗船下船時対応の感想、港地の魅力）	31
(5) 釜山港の感想（乗船下船時対応の感想、港地の魅力）	34
(6) 博多(福岡)港での感想（乗船下船時対応の感想、港地の魅力）	37
第4部 <船上講義：スマートクルーズアカデミー>	40
(1) 学生提言：事前準備から、発表までの感想、大学間交流としての意義	40
(2) 学生提言「テーマ：あなたが外国人に来てもらいたいと思う日本の地 域」についての感想	43
(3) クルーズ活性化会議プレゼン・パネル討論の感想	45
(4) スマートクルーズアカデミー内容全般について(学生提言大会、自治体 との交流会、フォーマルナイト、夜の交流会など) についての感想と 今後の要望	47
第5部 <地域活性化・クルーズ振興>	51
(1) 地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割についての感想 (国・自治体政策のあり方など)	51
(2) クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こし にむけての若い世代からの視点)	54
(3) クルーズ全般への感想：将来に向けての感想、上記の項目に該当しな かった部分への感想など	58

<注>

各項における本文冒頭の番号は、番号ごと同一の学生の意見・感想となります。また、学生の属性は以下のとおりとなっております。

No.	属性	備考
1	大阪大学（3年男性）	（クルーズ2回目：第8期マリナー）
2	大阪大学（3年男性）	（クルーズ2回目：第8期マリナー）
3	大阪大学（3年女性）	（クルーズ2回目：第8期マリナー）
4	大阪大学（3年女性）	（クルーズ2回目：第8期マリナー）
5	大阪大学（3年女性）	（クルーズ2回目：第8期マリナー）
6	大阪大学（2年男性）	（初クルーズ）
7	大阪大学（2年女性）	（初クルーズ）
8	大阪大学（2年男性）	（初クルーズ）
9	大阪大学（2年男性）	（初クルーズ）
10	大阪大学（2年女性）	（初クルーズ）
11	大阪大学（2年男性）	（初クルーズ）
12	大阪大学（2年女性）	（初クルーズ）
13	同志社大学（3年女性）	（初クルーズ）
14	同志社大学（3年女性）	（初クルーズ）
15	同志社大学（3年女性）	（初クルーズ）
16	同志社大学（3年女性）	（初クルーズ）
17	同志社大学（3年女性）	（初クルーズ）
18	同志社大学（3年男性）	（初クルーズ）
19	同志社大学（3年男性）	（初クルーズ）
20	同志社大学（3年男性）	（初クルーズ）
21	同志社大学（3年男性）	（初クルーズ）

第1部 <乗船前と乗船時の感想>

(1) 概要を知る前のクルーズへのイメージ

1. 前回はアメリカをイメージした船で今回はイタリアということまでどこが違うのか楽しみ。
2. 乗船経験は昨年5月に日本を訪れたカリビアン社のマリナーオブザシーズのみであったため、今回会社や船籍、対象層が異なるコスタ社の船に乗れることそれ自体が楽しみであった。乗船層の違いによる船内の雰囲気は異なるだろうと想像していたが、船内設計（デッキにアクティビティ設備が備え付けられている等）や催し物の類にはあまり違いはないのではないかと想像していた。
3. 昨年乗った時と比べて船内の施設やアクティビティはどう違うんだろう、船の大きさはどのくらいなんだろう、寄港地はどこなんだろう。日本海側って聞いたけど揺れないのかな。
4. 昨年度もクルーズに乗船させていただき、今年もクルーズに乗れることをとても楽しみにしていた。昨年度とは船社も寄港地も異なることから、昨年度とはどのような違いがあるかに対してもワクワクしていた。
5. 元々去年の船の半分程度の大きさかつさらにカジュアルな船であることは聞いていたので正直悲しい思いが強い。しかしせっかくの経験なので実物を見た時に少しでも感動を得れるようになるべく期待値を下げることに徹した。
6. クルーズはやっぱりお金と時間に余裕がある層の人が行くものだというイメージが強い。学生が行くイメージは全くなく、というよりも、そもそもクルーズに行くとか行ってみたいとかを考えたことがなく、選択肢の一つにさえ入ってこなかった。船内がどうなっているのかななども全く知らないし、わざわざ船で移動する必要性もわからない。
7. 寄港地での観光などがメインで、クルーズ船に乗るのは、あくまでもその寄港地までの移動の手段である。クルーズ旅行は時間がかかるので、若い世代よりは時間がある年配の方々が楽しむもの。新規のお客さんよりも、リピーターのお客さんの方が多そうである。
8. 豪華客船に乗って各地を観光する程度の話しか聞いておらず、かといって豪華客船といえば富裕層が地中海やカリブ海をめぐるというイメージしかない。学生の身分で本当にレベルの高い船に乗れるとは思っていないので、フェリーより少し



大きめの船に乗って、各寄港地の観光がメインになるのかなと考えている。

9. クルーズは一泊最低でも5万円はしそうなイメージで、したがって金銭的、時間的に余裕のある富裕層や高齢者層の方を対象とした、学生にとっては遠い世界の話。またクルーズ産業にも特に関心はなく、地元の近く（境港）に近年大型クルーズ船が寄港するようになったことを知っている程度。
10. 前回参加されていた先輩に話を聞いたところ、とても楽しかったと言っている。これまでクルーズとは自分の人生とは縁遠いもののように感じていたが、乗ることで貴重な経験ができるだろう。クルーズに乗れる機会は人生の中でなかなかないと思うので是非参加してみたい。
11. ゼミに入る前もクルーズにそこまで関心がなかったのに、ゼミでクルーズの話を聞いてもそういえばそんなことを説明してはったなーという思いしか抱かなかった。しかしクルーズに乗れるのは一生にそう何回もない機会なので、人生のオプショナルとして面白そうだなとも思った。
12. 年配の方で時間とお金に余裕のある人たちのみが娯楽として利用するもので、若い人向けのイメージがないから、船内で楽しめるかが心配である。また、5泊もして、コンテンツに飽きてしまったり、船酔い等でしんどくならないかも心配だ。
13. 私の中のクルーズのイメージは” 退屈 ” というものだった。船は遊ぶ場所まで移動するためだけの移手段としてのイメージしかなく、あまり船というのは私たちの日常生活では関わることのないものであるため遠い存在である。そして何より、船酔いが心配である。
14. 今まで大きな船には乗ったことがなく、船での生活を全く想像できないが、先輩の話などを聞いて、クルーズでの生活はとても楽しいのだろうと感じているし、他大学との交流も非常に楽しみの一つである。
15. クルーズ自体堅苦しく礼儀作法に厳しい場で、自分には縁のないもの。船内イベントは社交ダンスが行われていそう。食事も船内も総じて映画「タイタニック」のイメージ。学生身分で行ける場ではないだろう。
16. 神戸港でのクルーズ同窓会に先輩と出席し、先輩方から去年行った時の感想や良かったことを聞いているのでイメージは持っている。だが、いくら素晴らしい船旅であるとはいえ、何も知らない状態では値段は高く感じるし、五泊もすることへの不安を感じている。
17. 今まで遊覧船の規模程度の船にしか乗っていなかったのに、コスタのクルーズも大きさがそこまで大きくなく、船酔いするのではないかと心配である。また、各



寄港地の港から市街地へのアクセスに対して不安を感じる。

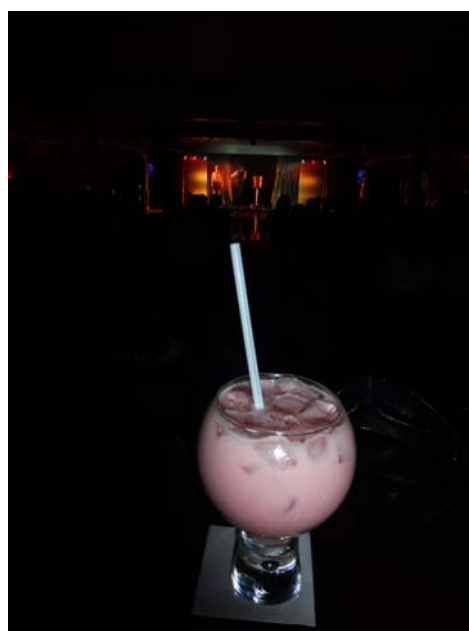
18. 船酔いしないかという不安が大きいのである。他大学の学生（阪大生）と仲良くやっっていけるのかが不安なのである。イタリア船なので、船内で英語が通じるのかが不安である。船への期待はとても大きいのである。人生初めてのクルーズでの旅、またクルーズでの学習にはとてもワクワクしているのである。
19. クルーズに乗ったことがないのでどのくらい大きいのか想像できていない。一度にいろいろな目的地に行けることがクルーズの醍醐味で船自体は単なる移動手段だと考えている。
20. クルーズは大富豪しか参加できないもの。お金と時間にゆとりのある人が参加できる旅行であって、庶民の私には縁のないもの。5泊6日も船で寝泊まりすることでストレスがたまらないか心配。とりあえず申し込む。
21. 正直、今まで乗ったことがある船というものは、移動だけを目的としたものがほとんどであり、内装もサービスもそれほど良いものではなかった。なのでそういった船に5泊6日も宿泊して楽しいのか、また船の中で安眠できるのか、など、楽しみよりも不安が大きな割合を占めていた。

(2) 事前のクルーズ説明会他でクルーズの概要を知った！

1. マリナーと比べて船内で遊べない…？寄港地が初めての場所が多いので楽しみ。
2. 船体の大きさが以前乗船した船より小さいことから、船内アクティビティは余り満喫できないだろうと思った。また、航路的に、複数の寄港地があり、また各寄港地での滞在時間が割合しっかりとられていたため、寄港地をそれぞれ十分に満喫することができそうだとも思った。
3. 前回のクルーズ船は、どちらかというところ「船内施設・アクティビティ重視型」の船だったが、今回のコスタクルーズは、日本においては「寄港地重視型」という印象。日本で今まで行ったことのない場所にいくつもいけるということで非常に期待していた。船の規模が小さめだったので、揺れること・船内で楽しめるものがあるかどうか、ということに気にかけていた。
4. 今回のクルーズは、寄港地が多いことからいろいろな場所に訪問できる楽しみがあった。一方で、昨年より船のサイズが小さいと聞いていたため、船内ではどのようなことができるのかと思っていた。
5. やはり予想通りのカジュアルさに悲しくなったがリニューアルをしていることを知り少し希望を持つことにした。しかしパンフレットからアクティビティの少なさ、そして無料の場所が少ないことがわかり少し悲しくなる。
6. 言われてみればたしかに、夜の間にも別の土地に移動していて、日中はその寄港地を観光できるというのは合理的でもあると思った。船という人間を運ぶのに適さないように見える移動手段でも、大きな夜行バスと思えばなかなか合理的な気が

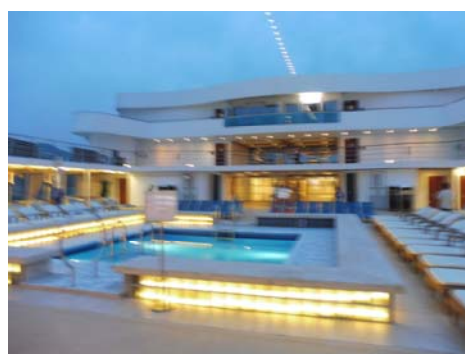
した。それならもう、わざわざ船内でイベントをするのをやめて、単なる移動手段に徹するのもありな気がする。

7. 船内のあちこちでいろいろなイベントが行われたり、毎日テーマの変わるパーティが開催されたりと、クルーズはただの交通手段ではない。船内には、様々な施設があり、食事と宿泊以外にも楽しめる場所がたくさんある。
8. パンフレットやホームページを見て、カジノやワインバーもある、本当の意味での豪華客船に乗れるのかという驚きが強くなっている。請求書が送られてきて、先生方の尽力もあると思うが、このレベルのクルーズにこんなにも安価で参加できるのかという驚きが大きい。
9. 第一に価格が特別に割引されていることを考慮しても安く、またその価格にそれぞれの寄港地を通常に旅行する場合にかかる移動費や宿泊費、朝、夕の食事代が含まれており、これまでのクルーズの手の届かないというイメージが壊れ、割と衝撃的である。想像以上に安いとなると船のクオリティーが低いのではと思われたが、船内の写真や映像を拝見するに、とても豪華であり、期待は膨らむ。
10. 船は大きく、中はきれいで、自分がそんなところに行っているのかと不安だ。パーティードレスを着るような機会はこれまでなかったが、フォーマルナイトがあるということも不安だ。浴衣やパーティードレスなどの用意が大変。準備が面倒なのでどちらかというとクルーズは止めたい。
11. 概要の説明を受けた時は、思っていたより何倍もスケールの大きなもので、行きたいという気持ちがぐんと跳ね上がった。船内も予想以上に豪華で、何よりパーティーが毎晩開催されるなんて、なんて夢のような話なんだと思った。どこかのセブにでもなるような心地だった。
12. クルーズ内のビデオを見て、その内装のおしゃれで洗練された様子に惹かれ、乗船が楽しみという気持ちが不安に勝る。思っていた以上に、船内でのコンテンツが充実していて、飽きは来なさそうだと感じる。
13. 先輩からクルーズの概要について聞いたときは非常に驚き、私の想像をはるかに超えるものであった。こんなに船内きれいなのか？こんなにたくさんのスタッフがいるのか？船内にカジノ？プール？と良い意味で混乱したのを覚えている。移動手段でしかないと思っていたが船内でのイベントも楽しもう。
14. 色々な場所で降りて観光をすることもできるし、クルーズ内では毎日のように



様々なイベントがあるので、今まで経験したことがないようなことを経験できると、とても楽しみに感じる。様々な施設もクルーズ内にはあったので、クルーズ内を満喫しようと思う。

15. 楽しいイベントが盛りだくさんで驚いた。船は乗るという移動手段だけでなく、船の中で楽しむことが出来る内容でとてもワクワクした。自分は食べることもとても好きであるため、自由に好きな時に食事ができるシステムにとてつもなく惹かれた。
16. 今回のクルーズ船は、先輩方が去年乗った船より小さめであるが料理や内装が豪華であることを聞いて一層楽しみである。以前に兄の学校の行事で日本のクルーズ船に乗船したが、パンフレットを見ただけで豪華さが一目瞭然であり、五日間で後悔なく楽しむべきだと感じる。
17. 自分が思っていた以上に船が大きいこと、そして船の中で様々なアクティビティが楽しめることを知り、クルーズがとても楽しみである。また、日本の各港だけでなく、自分が今までに行ったことのない韓国の釜山にも寄港することを知り、テンションが上がる。
18. やはり、人生初めてのクルーズでの旅、またクルーズでの学習にはとてもワクワクしている。むしろ、概要を聞いて具体的なイメージが湧いてきたので、より期待は高まったのである。その期待に対して6万円台という金額はとても魅力的に思えたのである。しかし、船に乗るための様々な準備や手続きの多さには戸惑いを感じたのである。たとえば、ホワイトパーティ用に白の服装を用意したり、スマートカジュアルな服を揃えたりするのは大変な気持ちもしている。
19. 学生が乗れる船なので大きさには期待していなかったが、船の全長220mで乗客定員数1800と聞いて驚いている。プール、ジム、カジノ等遊べる施設が充実しているので、船内でも目的ができて今から楽しみだ。
20. こんな贅沢をするのは非常に親に申し訳ない。自分のお金で参加する方が気持ちが良いし、思いっきり楽しめるのではないか。設備をみて、普通のホテルのような寝室だったので、安心して寝泊まりできそう。
21. 大きさやイベントなどをパンフレットなどで見たときはあまり、具体的に雰囲気や想像することができなかった。本当にこの船に自分が乗るのかと不安になるほどであった。しかし、日にちが近づくにつれ、ゼミ生と楽しみだねなどと話をすることが増えてきたように思われる。



(3) 申し込み後、乗船日前夜の感想

1. 準備が大変でパワーポイントの確認とかもしなければいけないので大変だなあ。
2. 1週間弱にも及ぶクルーズ旅行への楽しみが募る一方で、船上では通信が困難になってしまうことから、身の回りの課題の整理や処理をする必要があり、前夜はそれに追われていたため忙しかった。乗船経験自体はあったため、荷物の用意や船内での生活への不安はほとんどなかった。
3. 去年もそうであったがやはり荷物が多い。しかし前回よりも日程が長く、しかも乗船地まで帰ってこれるので便利だし、部屋を散らかしていても大丈夫そうだ。ただ、クルーズまでに終わらなければならなかったゼミ関連のことが終わっておらず、早く寝なければという気持ちと、仕事を残していけないという気持ちの間で余計に寝れなかった。
4. 寄港地の多いクルーズだと感じたため、5つもの寄港地で自由時間は何をしようかとプランを考えるので少し大変だった。以前にコスタに乗った先輩方からホワイトパーティーなどの写真を見せていただいていたため、船内イベントへの期待が大きかった。
5. 観光プランのパワーポイントが終わる兆しが見えず絶望する。とにかく朝が来るまでにパワーポイントを仕上げるためにリサーチ等をしていたので準備をする余裕もなかったし他のことを考える時間もなかった。
6. 実際にクルーズに行くわけだが、やっぱり経験のないことなので少し緊張する。船で移動をしたことはあるが、特に船内で何かが行われるとかはなく、ただの移動手段の一つでしかなかったので、船内での過ごし方がまだ想像できず、楽しみであるのは間違いないが、普段と違う空間で1週間も生活するとなると不安に感じる部分もある。
7. 大きい船なので、あまり揺れないとは聞いていたが、船酔いが少し不安。テーマがあるパーティは初めてなので、一番楽しみなのは、ホワイトパーティでダンスをすること。他にも、豪華な船内の施設を見るのも楽しみ。
8. クルーズの具体的な内容、外装や船上で行われるアクティビティを想像して、大きな期待感を持っている。ただ先輩方に話を聞くと、イベントが盛沢山すぎて、十分な睡眠時間を取れずに最終日には疲れ果てている人もいると言っていたので、一抹の不安感を抱いているのも事実である。
9. 通常の鉄道や航空機等を利用した個人旅行では自分で立てたプランでよかったのかといった不安がつきまとうが、クルーズの場合乗船時刻までに港に到着して船に乗り込んでしまえばあとは、身を任せておけばよいので精神的に楽である。ただ航海に対する安全への不安といったものは多少感じる。
10. 準備は大変だったが、せっかくいろいろなものを用意したので楽しもう。寝坊しないように気を付けよう。話に聞くとたくさん経験ができるようであり、いろ

いろな話もできて仲良くなれるようなので、不安も多少はあるがとりあえず楽しもう。

11. 乗船前夜はゼミの課題とサークルの運営と国共合宿の運営に追われて正直クルーズどころではなかった。大体の準備はしていたので荷物の面で焦ることはなかったが、気持ちの面では気がついたらもう前日という思いが強かった。とにかく色々な仕事をやり残しておくのが不安だった。
12. 5泊という長旅にわくわくする気持ちと、やはり体調面等で心配する気持ちと両方を持っている。パンフレット等を見返して、船内でどう過ごすかのシミュレーションをしたり、寄港地の情報を調べたりして、期待は大きい。
13. 豪華客船に乗れるという楽しみな気持ちの反面、少し不安だ。北朝鮮のミサイル問題の最中であつたこともあり5泊6日間のうちほとんどが海の上ということに不安を覚えた。クルーズ中のスケジュールはかなりハードだ。
14. 思ったより早くクルーズ前夜になり、実感もあまりなく、まだ荷物の準備をしている。しかし、何度もパンフレットやクルーズ中のスケジュールを見ながら、クルーズでの生活が待ち遠しい。海外にも行くので、安全第一にクルーズ生活を送りたいとも思う。
15. ドキドキワクワクが止まらない。しかしまだ現実味がない。Webサイトも何度か見たのだが、大型客船というもののイメージがどうもつかめないのだ。また、昨今の北朝鮮情勢をうけ、日本海にでることに少々の不安がある。
16. 以前乗船したときはまだ幼稚園生だったのでクルーズに乗るという自覚はあまりなく、かつ泊まりではなかったのがわかっていなかった。今回は五泊六日で普段の洋服やパーティの正装の準備などがあるので大変さはあるが準備しながら楽しみである。
17. 今まで船旅をしたことがなかったので、普段の旅行に比べてどのような準備をする必要があるのか少し悩む。また、神戸港でのクルーズの際に起こった船酔いをしないように睡眠時間を十分に取る必要があるな、と感じ、前日は早めに寝るよう心掛けたい。
18. ワクワクして寝られなかったのである。また、荷物の忘れ物がないかの不安にかられたのである。特に、薬類は何があっても良いように入念にチェックをした。また、いくらほど現金を持っていけば良いのかはイマイチわからなかった。とりあえず三万円持っていくことにした。
19. 家から舞鶴まで遠いので早く家を出ないといけませんが起きられるか心配だ。北朝



鮮の情勢を知ってテポドンが飛んでこないか心配である。外国人のスタッフが多いと聞いているのでコミュニケーションがとれるかも心配である

20. 長時間船に乗るので、体調が悪くならないか心配。イタリア船なので、外国の食事に体が対応できるか不安。昔、韓国の学生が乗った船の沈没事故があったので生きて帰ってこれるか不安。不安ばかりだが、明日からクルーズに行くという実感が全然ない。
21. 楽しみな部分が増えてきて、もうほとんど不安に感じることは無くなった。しかし外国の船ということで、お金をドルに変えないといけなかったり、ウォンを用意しないといけなかったりして、普段自分が行くような国内の旅行とは勝手が違うんだなあと痛感した。

(4) クルーズ客船が目の前に見えた！大きさに驚きの連続。期待感が膨らむ

1. 前回と比べて小さいという話だが、さすがクルーズ船、十分大きいなあ〜と思った。
2. 今回は舞鶴港からの乗船であり、バスで舞鶴まで移動したため、客船を初めに視界に捉えたのは割合遠くの方からであった。そのため、前回乗船した船より船長が100m弱小さいことが如実に認識され、規模に関して新たな驚きは特段感じなかった。
3. 昨年に比べるとやはり小さい。どちらかという少し高さが高く、横の長さが小さいような印象。ただ、近づくとなんだかんだ大きく見えてきて、やはりクルーズ船だなと感じた。また、クルーズ船を初めて目の前にした2年生や同志社の方々はその大きさにかなりテンションが上がっていたが、2回目の乗船となる3年生はどちらかという船の施設などについて期待していた。
4. 乗船前には、昨年度よりも船の規模が小さいと聞いていたが、初めて船を目にしたときには、そこまで船が小さいは思わなかった。これから一週間近く船に乗ることを考えると、船上でのイベントや寄港地が楽しみで興奮した。
5. 予想を上回る小ささでただただ悲しくなった。一回目がこの船だったら何も失望しなかったのにと考えるとむなしくなったが乗ることができるだけでも恵まれていることは理解しているので贅沢を言わないように頑張った
6. 想像よりもかなり大きな船が止まっているのを見て、自分が今から1週間も生活する空間の広さに驚いた。5月の初めに神戸港を回ったときに乗った船の何倍もの大きさの船だったので、どれだけのお金がかかっているのだろうかと考えてまう。自分があんな船に乗ることになるとは思ったこともなかった。
7. ちょうど想像していたくらい大きさである。港にとまっている他の船と比べたら大きいという印象であるが、救命ボートが思っていたより大きい。それだけ多くのお客さんが乗っているのだなあということ、外観から感じる。

8. 最初に船が目に入ったのは舞鶴港である。真正面から船を見る形になったので、船の全体像は把握できないでいるが、その船首だけで視界がいっぱいになっている。海側の客室になると聞いていたので、無数に見える客室の丸窓から見えるであろう海や港の様子を想像してワクワクしている。
9. はじめて大型クルーズ船を目の前にしてまさに「動くホテル」といった印象を受けた。クルーズが複数回目の人は小さめと言っていたが、初クルーズの人であれば誰もその大きさに圧倒されるのではないかと感じた。
10. ついに船に乗ることになり、テンションがあがる。先輩たちが去年の船より小さいとおっしゃっているが、十分大きい。クルーズ船に乗るという実感がそれまではなかったが、ようやく実感がわいた。船に乗る手続きは思ったより少し大変だった。
11. でかっ！と思った。初めは舞鶴港に泊まっていた他の船を今回のクルーズだと勘違いして、なんや普通の船やんと思ったいたが、舞鶴港の視察を終えて港に波止場に戻ってみると、どでかい船が泊まっていて度肝をぬかした。そして早くこの船に乗りたいという気持ちが一気に高まった。
12. 規模は想像よりも大きく、初めてちゃんとクルーズ船を見たので、興奮と感動を感じる。これからこの中で生活できると考えるととても楽しみになる。
13. 先輩から去年乗船した船より小さいと聞いていたため正直あまり期待していない。しかし想像以上の大きさで近くで見ると一層その大きさを感じた。船自体が一つのテーマパークのようだと聞かされていたがその意味が船を目の前にして分かった。
14. 大きな船にも乗ったことがなく、初めてコスタネオロマンチカを見て、想像以上に大きくて驚く。早く乗りたいとテンションが上がるし、船の中を見たくて仕方がない。こんな大きな船の中で過ごせるなんて贅沢なことだと思う。
15. でかい。とてつもなく大きい。想像をはるかに上回る大きさ。ものすごくテンションがあがり早く船内を見たい。やはり身の丈に合わない豪勢なところに来てしまった。人生で最初で最後だと思って存分に楽しもう。とにかくすごい。ワクワク
16. 以前乗った記憶は薄いですが、三倍くらいあると思う。舞鶴の岸壁に対してスケールが大きいことがうかがえる。舞鶴の展望台から町を見下ろしたときに自衛隊の基地にある大きな船と同時にコスタ船もしっかり見えるほど大きい船である。
17. 自分の想像の倍ほど船が大きく、とてもびっくりすると共にテンションが上がる。また、コスタネオロマンチカは高さが結構あるので、近くにある建物よりも船の



ほうが高く、世の中にはこんな船もあるのだな、と物珍しく思う。

18. 前方から船を見上げた時意外に小さいかもと思ったのである。(コスタ・ネオロマンチカ) そうはいても、私が知っている船よりもうんと大きいものであるからもちろん驚き、圧倒されるのである。舞鶴港において、乗船するまでに「倉庫」を通るといいうのがびっくりした。てっきり待合所や出国審査所が、仮設ではなく、建物として存在しているものだと期待していたので少し残念だった。
19. めちゃくちゃでかい。こんな豪華客船に今後乗れる気がしない。
20. 「大きい」この一言に尽きる。想像以上に大きくて、圧倒された。こんなに大きな船がどのようにして動いているのか、またなぜ沈まないのか、どのくらいのコストがかかっているのか気になる。船内がどのようにになっているのか、中に入るのが非常に楽しみ。
21. 予想していたよりもはるかに大きな船があってすごく驚いた。大阪大学の学生さん達は去年乗った船のほうがまだまだ大きかったよと話していて、これより大きな船なんてなかなか想像がつかないと思った。

(5) 乗船直後の感動

1. 船内装飾がとても凝っている、クルーがとてもこやか。
2. 船内の内装はこじやれていて可愛らしく感じた。客室内も狭すぎず広すぎず快適であった。クルーの方も丁寧に対応して下さり、時に発音が聴き取れないことがあったが取り立てて問題になるようなものでもなく、快適に過ごすことができそうだと感じた。
3. 中に入るまでは、「昨年よりも小さいし施設もない」と聞いていたため、中では共用のスペースなどないのではないかと考えていたが、思っていたよりもみんなで集まれる場所があり、イベント会場も多く、良い意味で期待を裏切られた気分だった。
4. 船内のパブリックスペースに関しては、すこしこじんまりした感じのイメージを抱いた。(マリナーが吹き抜けになっていたのと比較してだが。)船員さんは、日本語で話しかけてくれるなどみな明るく距離が近く感じた。
5. 乗船直後の風景は予想通りであり少し安心する。エレベーターが去年はガラス張りで吹き抜けの世界を見れていた分ただのエレベーターだったのが残念。船員の態度などはやはりイタリアらしくとても陽気な雰囲気が出ていてとても良い。
6. 船員に日本人がほとんどいないのを見て、改めて自分がいまクルーズ用の船に乗っているのだと実感した。放送も英語で行われており、会話も英語だったりイタリア語だったり国際色豊かという風に言えると思う。内装がとてもきれいでこんなところで1週間も学生が生活していいものなのかと感じた。
7. 船とは思えないような作りで驚いた。レストランも複数あり、船内の施設も綺麗

で、ホテルのようだった。船員さんたちは、想像していたよりもフレンドリーで、お客さんとの距離が近く、おもてなしの精神であふれていた。

8. 乗船口は内部構造丸見えで少し武骨な印象を受けるが、そこから客室階に移動すると、想像に違はない豪華な内装である。客室に荷物を置きに行くと、客室整備担当のクルーが元気に挨拶をしてくれ、ここがイタリアをコンセプトにした陽気な船だということを再確認している。ディスコやバーなどもイメージ通り豪華で、ここで過ごす五日間をより鮮やかにしてくれるものだと強く感じている。
9. 当初のイメージと異なり船員が外国人ばかりで日本人の船員が見当たらず、急に外国に来た気分になるとともに、船員が外国人ばかりであることに対して言語面、サービス面での不安を多少感じた。またパブリックスペースは豪華な外装ではあるがそれほど広くはないと感じた。
10. 船内は写真で見た通りきれいである。イタリアの船ということだけあって高級感がある。話には聞いていたがクルーは日本人よりも外国の人が多く、英語が飛び交っている。日本からこれまで出たことがないので、そのような環境がすこし楽しい。大きい船名だけあってあまり揺れない。
11. レストランやパブリックスペースは想像していた通り豪華なものだった。寝室は思っていたよりも狭くてバスタブのないシャワーには少し不満だった。イタリアの船だと聞いていたので船員はヨーロッパ系の人が多いのかと想像してたが意外に中南米や東南アジアの人ばかりで驚いた（人件費を考えると当たり前の話だが）



12. 船内のパブリックスペースも、内装がとても美しく、期待通りかそれ以上でもある。外から見たほど中が広いわけではないが、ちょうど良いコンパクトさだと感じる。船員さんはみなフレンドリーでいろいろ話もできて楽しい。
13. 船員の方はみんな笑顔で楽しそうに働いておられて私のクルーズに対するイメージを壊さない。パブリックスペースや階段、廊下などの船内の構造は想像以上にきれいで豪華な印象だ。これならきれい好きで細かいところが気になる私の母をクルーズに誘うことができる。
14. 部屋はきれいで、船のどこもが豪華である。船内はやはり広々としている。想像していた船よりもすごい。船員たちは、外国人の方たちが多く、簡単な英語で

も通じるし、優しい方が多くて不安はあまりない。

15. 船内のスタッフの方が外国の方ばかりで、まだ日本にいるのに日本でないみたいだ。空港で入国するときと似た緊張感と異国感。船内に乗船し中まで入って行くと、まるでホテルのように綺麗で落ち着いた空間に驚いた。総じて船に乗ったとは思えない。

16. 想像より船内というよりかはホテル内という感じである。共有スペースでは日本ではあまり見かけないようなステージやオシャレなバーがあり驚いている。一番よかったのはデッキで、コストアのロゴがあるトップも見えて夜にはライトアップされたり、ゆったりとしたソファがあるのには驚いている。



17. スタビライザーの効果もあってか揺れが基本的にはほとんどない為、地上にいるときとさほど変わらない。ホテルのようにエレベーターや飲食店が立ち並んでおり、また船員さんは外国人の方が多いため、あまり日本という感じがしない。
18. まずエレベーターが船内に存在しているのが驚きである。そもそも11階建てになっているというのがびっくりなのである。コスト・ネオロマンチカの大きさを改めて実感したのである。「イタリア船」と聞いていたので、船員は皆イタリア人ないしヨーロッパ系の白人ばかりだと思い込んでいたが、黒人も黄色人種も船員として働いていたので驚いたのである。そして、親しみを感じることができ、安心したのである。
19. 多いどころか全員外国人のスタッフで驚いている。イタリア語で話しかけられ困惑した。スタッフの方はみんな明るく陽気である。船内はホテルのような内装で船の中だとは思えない。
20. 船内に一步入った瞬間から外国になった。船員さんもほとんど外国の方で日本語があまり通じないが、親切に対応してくれて嬉しい。船員さんがいつも笑顔なのが印象的。船内にある椅子やじゅうたんなどひとつひとつがおしゃれで高級感が出ていたように感じる。
21. 内装はとてもきらびやかだし、まるで船の中ではなく大きなホテルの中にいるような感覚になるくらい豪華ですごくびっくりした。船員さんもほとんどが外国人ですごく気軽に話しかけてくれるので堅くならないですんだ。

第2部 <クルーズ船>

(1) 船内施設(ハード面)の感想(船内施設・施設のレイアウトなど)

1. プール寒くて入れない上にコンテンツがジムしかないのが若干ショックだった…窓ありの部屋だったのは良かった。
2. 屋外アクティビティはプールの設置にとどまっていたが、レストランやスパ、バーが複数設置されており寄港地から戻ってきたときに穏やかにくつろぐには適当だと感じた。別途支払いの有料施設であるものの価格は妥当な範囲でありよい。
3. 船内施設については、様々なイベント会場はあったが、実際に自由に遊んだり楽しんだりできる空間は少なかったように感じた。BarやCabaretなどお酒に関連する場所が多いイメージで、「実際に体を動かして遊びたい」と思っている若者には少し物足りないもののように感じた。また、船の前と後ろの感覚がいつになってもつかめず、よく同じ階で迷った。もう少しBarの部分を減らし、遊ぶ場所を増やすのも楽しいかもしれない。
4. 船室は部屋自体もベッドも広く、3人部屋でもそこまで窮屈に感じなかった。また、部屋のレイアウトも明るい印象を抱いた。
5. アクティビティの少なさや船の小ささを改めて実感した。どうやってこの中で一週間やっていけばいいのかわからなかった。甲板も特に何もなく、有料のものが多くのが残念だった。ただ一つ一つの装飾は綺麗だった。
6. 部屋の中は若干古い感じはしたが、そのほかはかなりきれいだったので、船の中という感覚があまりなかった。本当に船の中にプールがあって、日本を回るうえでは不要に見えるが、本当に映画とかで見るクルーズ船と同じなのだとして強く実感した。ただ、いつまでたってもどこに何があるのかを覚えられなかった。
7. デッキに横になれる椅子があったり、毛布が用意されていたので、少し肌寒いデッキ上でもくつろいで過ごせることができよかった。また、休憩スペースとしてだけのデッキではなく、ダンスイベントや、カクテルのイベントなどが行われており、楽しみ方が何通りもある点に感心した。また、客室は余裕のある広さで、ベッドの寝心地も非常によく、快適だった。
8. ディスコにジムやプールなどまるでどこかの富豪の豪邸かのような設備で、これらをほぼ無料で使えるという事実におどろいた。縦に長い船の構造上仕方がないことだろうが、船の端から逆側にある自分の客室に移動するまでに長い時間がか



かった。またそれぞれの階にヨーロッパの国々の都市の名前が与えられていることにより、より非日常感（非日本感）が演出されていた。

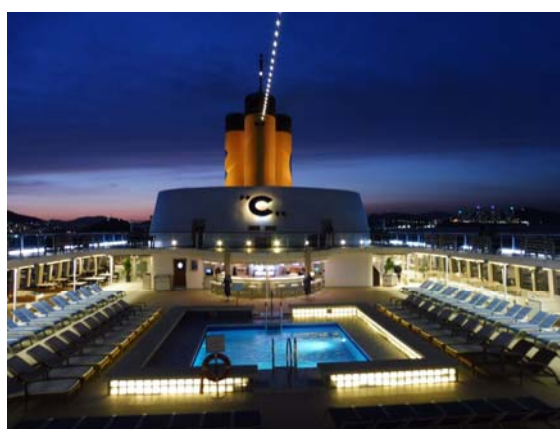
9. ハード面では船自体が小ぶりなこともあり、それほど充実していないように感じた。また最終日になっても船内で迷ってしまうといった事態が発生していたので船内全体の案内版などが目立つところにあるといいと感じた。また海上でインターネットに接続できず、グループ内で連絡手段が絶たれてしまうことは予想以上に不便であり、またコストのアプリはそれを補うに足るものであるとは言えなかった。少々値段を上げてでも無料wi-fiなどであらかじめ乗客に不便さを感じさせない、もしくはコストアプリを改善することが必要であると感じた。
10. 船の中は広く、似たようなところも多かったのでなかなか慣れなかった。フロアガイドがもう少し充実していればよかった。内装はおしゃれで高級感が漂っていてよかった。いろいろなところから海が見えるデザインだったのもよかった。
11. 船内は非常に広く、どの階も同じような作りをしているのでどの施設がどこにあるのかを覚えるのになかなか時間がかかった。エレベーターに施設案内があればよかったなと思った。ワインバーやカジノは非常におしゃれで非現実的な体験を味わうことができた。
12. 施設のレイアウトはわかりやすく、いいサイズだと思った。階段のつくりもきれいかつ、両側に分かれるため良いと感じた。客室の偶数奇数の分かれ方や、エレベーターの閉まるのが早い等、少し苦勞したが、それは文化の違いだと思った。
13. 3階から11階まであり最終日になっても迷ってしまった。朝食のビュッフェはガラスから海が見え、良い位置に配置してあるなと思った。イタリアの船と言う事もあり、非常におしゃれで外国のようであった。部屋から見る朝の海は最高だった。
14. 船内は全体的にオシャレで高級感があった。それぞれの場所によって雰囲気が異なり、何日も船内にいても飽きることがなかった。部屋は海側だったので、海を見ることができて満足であった。一人で行動すると迷いそうだった。
15. 到着きがありつつもフロアによって雰囲気が違った。レストランひとつとっても、夕食をとった「ボッティチェリ」は高級感のあるつくりであったが、主に朝食の際に利用した「buffetレストラン」は白が基調の店内で外がよく見渡せる明るい開放的なつくりになっていた。同じ船内でもテーマによって全く異なる雰囲気を味わえるところが面白かった。また、客室は小さいながらも高い天井と海がみえる丸い窓があるため広く感じ、十分に



くつろぐことができた。不便点を挙げるとしたら、船内が迷路のようにわかりにくかったので現在地のわかるイラスト船内地図が設置されていると便利だと思う（タッチパネルで操作できるもので言語選択できるものだとなおよし）。あとは客室にコンセントが少なかったことくらいである。

16. 日本では見慣れない内装で本当にイタリアにいる気分であった。はじめはアメニティグッズがないことに疑問があったがゴミが出るし普段ホテルにアメニティが多いことに逆に疑問が出た。エレベーターが二か所あって自分がどこのエレベーターを使ったのか分からず、どこに行くにしても広いので迷わずに行くことが難しかった。

17. プールは時期的な問題から利用することはなかったが、その傍にあるラウンジやカジノ、トレーニングジムは毎日利用したほど快適で気に入っており、とても良かった。ただ、施設が沢山あって何階に何があるのか結局最終日になっても覚えられなかった。



18. ジムとカジノがとっても面白かった。ジムは船の先にあつたので、朝にランニングをしながら航海を眺めるのは格別であった。こんな体験は他ではできなかったであろう。カジノもとても楽しかった。ルールは自室のテレビで学習できたので心配ではなかった。友人はルーレットにはまって110ドル失ったが、それもまたおもしろく、良い思い出になった。
19. プール、ジム、カジノ等遊べる施設が充実していたので船の中でも楽しむことができた。予定の都合上、船にいる時間が少なかったのですべての施設を使用することができなくて残念だった。寒かったのでプールに入れなかったのが残念だ。
20. 部屋の設備もよく、毎日しっかり休むことができた。ただ、浴室の形態が日本と異なり使用しにくかった。シャワーを使うと水しぶきがあちこちに飛んでしまうのが気になる。また、各階にイタリアの町の名前が付けられていたのが面白かった。なぜ、このフロアにこの地名をつけたのか理由を知りたい。
21. クルーズのなかにはカジノやジム、バーなど様々な娯楽施設が設置されており、非常に新鮮で利用して楽しむことが出来た。また船のレイアウトに関してはどうしても縦に長く横にも長かったので迷子になったり、集合場所が分からなくなったりした。

(2) 船内サービス(ソフト)の感想(食事内容(レストラン・ルーム・カフェ・ハンバーガーバー(11F)・ピザバー(12F)・サービス・オペレーション(キャビン清掃、ホテルレセプションサービス、カジノ、その他船内の各部門オペレーション))

1. 食堂からルームサービスまで、クルーが全体的にこやかなのがよかった。
2. 利用したのは一部のレストランやカフェ、バーである。接客は丁寧であり、またバーごとに雰囲気やサービスを工夫している点もよかった。キャビン清掃は細やかに行われており、5Fカウンターの対応も丁寧にして頂いて、よかった。
3. レストランの食事が非常に美味しかった。イタリア船だからかもしれないが、量も多すぎず、メニューの種類も多く、毎回飽きずに食べることができた。また、掃除が行き届いていて、部屋の中に限らず船の中じゅうでゴミを見かけることがなかった。クルーの方々も、日本語が話せない方が多かったが乗客に向けての笑顔やサービス精神が素晴らしく気持ち良かった。
4. レストランでのサービスはとてもよかった。クルーが話しかけに来てくれたり、ダンスも盛り上がり楽しかった。食事もどれもおいしかった。ワインバーを利用した際は、私たちの希望に合わせたワインをソムリエ?の人が選んでくれた。
5. 食事に関しては基本的には非常に満足した。サービスに関してもしっかり顔を覚えてくれてレストラン以外の場所で会っても挨拶をしてくれたり目くばせをしてくれたりしてうれしかった。ただカフェにおいている種類がほとんどどこも同じでもう少しバリエーションを増やしてもいいのではと思った。
6. 食事はすぐに運んでくれたし、誰が何を注文したかまでもしっかり記憶していた。しかもどの食べ物もきっちりとしていた。その他の場所でもきっちりとした対応をしていて、英語が全く分からない日本人にもちゃんと対応していた。カジノも本当にカジノだったので、旗国主義というものを実感した。
7. 全体的にレストランがよかった。コース風に自分で好きなだけ注文できるシステムが特に良かった。また、客室のベッドメイキングについて、最終日にベッドカバーがリボンの形になっていて、細かい気遣いに感心した。カフェに行った際、夜遅かったにもかかわらず、生演奏のピアノとバイオリンが聞けたのもよかった。
8. レストランに関しては、料理の運び間違いが多く見受けられ、改善の余地がある。食事の客を巻き込んだダンスは快い食事の時間をさらに楽しいものにして欲しかった。最終日にプールデッキで行われていたカクテルの販売はイタリアの食前酒の習慣を模したものだそうで、海の上のイタリアというコンセプトの徹底がな



されていた。

9. 料理はどれもクオリティーの高いものばかりであったが、飲み物はそれほどでもなかった。当初やや不安視していた外国人船員の接客は非常に丁寧かつ親切で、なんととっても終始陽気な態度は日本人には出しにくい彼らの良さであると感じた。
10. 食事はおいしかった。見た目もよかった。レストランのスタッフがたくさんお皿をもって運んでいるのはすごいと思った。掃除もきれいにされていたと思う。クルーのみなさんが結構気さくに話しかけてくれて楽しかった。
11. 食事はほとんどが非常に美味しかった。口に合わなかったのは最終日の和食をモチーフにした料理くらいである（普段和食に慣れているからハードルが上がっているのだと思う）ロブスターやラム肉など日常では食べることのできない料理を味わうことができ至福のひとつときだった。料理名が知らないカタカナ語で戸惑ったのもまたいい思い出だった。
12. レストランの食事は基本的にとてもおいしかった。特に朝食は種類が豊富で、甘いものも多く、毎朝楽しみだった。清掃もきれいにしてくれてよかった。スタッフがみな面白くてたくさん話してくれてよかった。
13. 綿棒やブラシなどのアメニティーがもう少し部屋に充実していたらなと思った。私は三人部屋であったが、タオル類は3つ準備されていたのだがコップ等類が2つしかなく少し困った。清掃はいつも良いタイミングで入ってくれていたが、清掃員のきつすぎる香水が部屋に残っており多少の不快感を感じた。
14. 朝食はバイキング形式なので、食べたい量だけ食べれて毎日非常に満足だった。夜ごはんは毎日コースで、船員の方たちがいつも楽しませてくれたので充実した時間だった。その他にも、いつでも軽食が食べられるカフェがあり、時間があればみんなとその場でおしゃべりできたので良かった。
15. いつでも食事ができるところが非常にうれしかった。とくに、カフェで軽食とデザートをデッキに持って出て大海原を眺めて涼しい風にふかれながらティータイムを過ごせるところはクルーズならではの楽しさであった。夕食の際にダンスなど日替わりで楽しいイベントが行われるところも良かった。何よりも感動したのは、忙しいながらもサービススタッフの方々が楽しそうに笑顔で接してくれるところだ。日本のホテルのように礼儀作法を守りいつ見ても落ち着いており私語も無駄もなくきっちりとした仕事ぶりとはまた違い、一人ひとり雑談もしつつみんな家族のような暖かさと笑顔があり、こちらまで嬉しく楽しい気持ちになった。



16. ルームサービスに回数が少し多いと感じた。その他レストランを利用していたのでレストランクルーとの関りが一番多かったが、クルーみんなフレンドリーで楽しかった。いろいろなものを使って即興でマジックをしてもらったり、一緒にダンスしたり食事以外でも充実していた。頼んだメニューと異なるものが運ばれてくることは多かったが楽しめたので良かったと思う。
17. 晩飯のレストランでは、味はそこそこではあるもののパフォーマンスがとても陽気で面白く、楽しく食事を取ることができた。朝飯はバイキング形式で、普段食べたいものがなくて困る僕でも食べたいものが沢山あるくらいバラエティ豊かで、とても良かった。他にも、ルームサービスやカジノのクルーの皆さんがとても親切だった。
18. 24時間何かしらを口にできるのはよかった。特に私は空腹で朝4時に目覚めてしまっていたので、布団から出た後、サンドイッチを食べに11階のレストランに直行していた。コスタ・ネオロマンチカは唯一「石窯」でピザが焼ける船である。一度だけイタリア人によるマルゲリータを味わったが、もう日本のピザは食べられない。
19. レストランやbuffetは自分の好きなものを好きなだけ注文することができたので幸せだった。毎晩夕食時にはダンスのパフォーマンスがあって楽しめた。乗客を巻き込む形で自分も参加したが恥ずかしかった。
20. 無料の24時間いつでも利用できるバイキングがあったのが良かった。寄港地から帰ってきてからお茶をしたり、夕食後にお茶をすることができるので、便利だった。食べ物の味もとても惜しかったので、無料のものだけで十分満喫できた。
21. 食事に関しては本当に非の打ち所がなく、レストランや無料のbuffetや、ピッツァリアもすべてとてもおいしかった。中でもゼミ生と一緒に食べたピザは本当に美味しく、本場のピザはやっぱり違うなと思わせてくれる一品だった。



(3) 船内SHOW, エンターテイメントの感想(船内鑑賞イベント全般、プロダクションショー、落語)

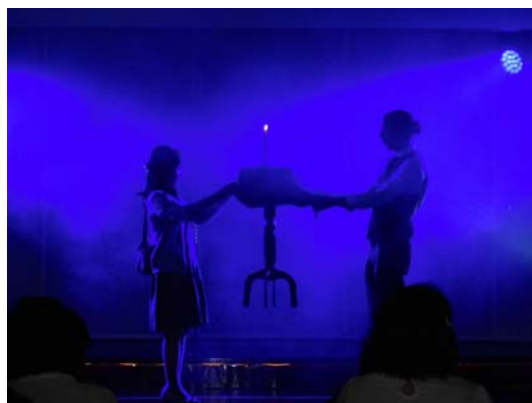
1. キャバレーナイトは芸術でした。ただただ見入ってました
2. 船内では連日ショーが行われていたようだが、部分的にしか鑑賞できなかった。鑑賞した催しについてはおおよそ満足できたように思う。ただ、9Fデッキのショーが行われていたフロアにおいて、後方の椅子では前列の人の頭と重なって肝心のショーが見づらいというのはあった。

3. 船内では全体的にSHOWがとても多かった印象を持った。また、参加型のイベントが多く、船に乗っている人みんなで楽しめたように思った。また、とてもセクシーな女性たちのダンスは正直かなり見ているこちらが緊張したが、それこそ「非日常」を感じることができて非常に楽しかった。ただ未成年や赤面している男子もいたので、「大人向けです」というような案内があっても良いかもしれない。
4. マジックショーやダンスショーなど毎晩様々なエンターテイメントが用意されており、飽きることはなかった。また、マジックなど観客参加型のものも多くあり、観客とステージの距離感が近いエンターテイメントにとても満足した。
5. やはり去年の大きな劇場でのショーと比較してしまい、質の低さやレパートリーの低さが目立った。またフォーマルナイトの際も去年のようにイベントがあるわけでもなく改善の余地はあるかと思う。食事の時にダンスなどがあった点はとても楽しく高く評価したい。
6. 船内でのエンターテイメント系のイベントで使われる音楽がどれも素晴らしいものだと感じた。マジックをするひとだったりいろいろな種類のエンターテイナーがいたが、おそらくその時間以外は別の仕事もしているのだろうと思うと本当に器用だと思う。乗船客の年齢が高めなので、若干参加率が低いのではないかと感じた。
7. レストランでの食事の時、急にダンスが始まり、会場全体が一つになってダンスしたのがとても楽しかった。日本の食事の文化では、食事中にダンスをするということがないので、外国人クルーがいるクルーズならではの体験だったと思う。クルーがテーブルでマジックを披露してくれたのも面白かった。
8. 船内ショーは毎日行われていて、しかもそのレベルの高さに感動した。しかしこちらで見る限りでは、ショーのジャンルが偏りすぎていたかなとも思う。マジックショーは遠くからしか見えなかったが、そのタネの想像もつかず、船内の雰囲気も相まって非常に幻想的な空間が出来上がっていた。突然にバイオリンやピアノの演奏が響き、普段いることのない環境にいることを強く感じた。
9. 通常は劇場に足を運ばなければ体験できないバイオリニストの演奏や歌手の歌声が聞けたのはとてもよく、クルーズならではの感じだ。またマジックショーなどの観客参加型のイベントはとてもよいと思った。一方で露出の多い過激なショーは正直自分も周りも目のやり場に困るといった感じだった。
10. マジックがすごかった。全然分からなかった。歌が上手な人が多くて聞き入ってしまった。ダンスも見っていてテンションが上がり楽しかった。レストランでもマ



ジックを披露してくださる方がいたり、ダンスがいきなり始まったりして楽しかった。下船説明会でも司会の方が面白く、クルーズ船のクルーはいつでもどこでもエンターテイナー精神を大事にしていらっしゃるのだろうと感じた。

11. 船内のショーはとても見ごたえのあるものだった。一番印象に残っているのは妖艶なダンスである。見ごたえがあった。最終日のクルーがカクテルを手作りしてくれるイベントも楽しかった。何よりそのカクテルがとても美味しかったので買ってよかったと思った。
12. マジックがとてもすごく、登壇できて楽しい経験になった。エンターテイナーの人たちは、よく訓練されていて、飽きの来ないショーが多く、楽しかった。特に歌がすごくよかった。
13. マジックショーやディナーの時のダンスや歌は船客をいかに楽しませるかというスタッフの方の配慮を感じた。自分たちも楽しみながらサービスを提供できているところに感激した。ディスコで彼らが夜、練習している姿を見るとお客さんを楽しませるにはこのような努力があってこそなのかなと改めて感じた。
14. 夕食時の船員たちのダンスはとても場を盛り上げてくれた。自分たちも一緒に踊れたので楽しかった。その他にも、マジックなども見れて非常に満足したのもだった。船員たちは、仕事以外にもエンターテインメントの部分でも楽しませてくれて、陽気な雰囲気よかった。
15. 毎日違うダンス違うshow違うイベントで楽しかった。同じ船内にいて毎日働いているのなぜエンターテイメントまでこなせるのだろうと思っていた。しかし、夜中にディスコなどを覗くと、ダンススタッフやサービススタッフが夜な夜なshowの練習をしているのをみかけた。毎日朝から晩まで働いているのに寝る間も惜しんでエンターテイメント充実の努力までしてとても感動した。
16. 手品やダンスやチョコレートバーの前で演奏会をしているのをみた。どれも素晴らしかったが、ディスコでの手品は観客が多く、少し見づらさを感じた。いろんなところでショーが行われていたが、ほとんど見逃してしまったことが悔やまれる。
17. マジックショーを鑑賞したが、パフォーマーは観客を盛り上げることが上手く、またレベルも高くて思わず魅入ってしまった。シアターと違い、やや小規模であるので、観客とパフォーマーとの距離が近く、間近で楽しむことができた。
18. 日中港に降り立ってうろうろしたので、船に戻る頃にはヘトヘトで、晩御飯を食べた後にはすんなり眠りにつく方が

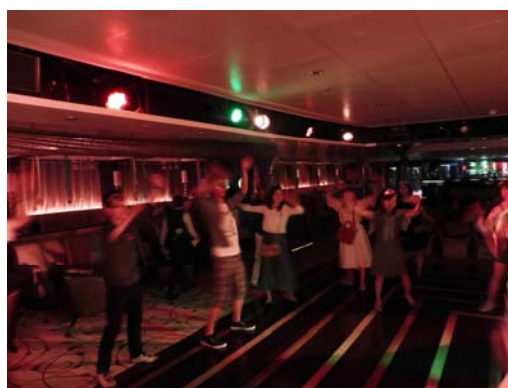


嬉しいなと感じることは多々あった。フォーマルナイトはとても楽しかった。船長からのシャンパンのサービスは粋だなあと感じた。

19. マジックショーやダンスを間近で見ることができ、とても楽しかった。マジックは観客を助手として巻き込んでいて、観客もショーに参加できるのがいいと思った。ダンスでは、お姉さんがきわどい衣装を着て踊っていたのですごく興奮した。
20. マジックショーは自分でもできそうなレベルだった。ダンスばかりで他のショーはあまり印象に残っていない。
21. ショーでは外国のダンサーの方々が毎晩毎晩踊っていて、その種類もたくさんあり、情熱的なものから、アップテンポなもの、キュートなものまであり毎晩見ていたが、飽きることはなかったので大変良かったと思う。

(4) 船内スポーツ・体験施設・内容の感想（ジャクジー、プール、ジムほかスポーツActivity）・体験型イベント(ダンスPARTY) など)

1. ダンスの場所が前より小規模だなーと思った。イベントも少ないのが少し残念だったし、フォーマルナイトに関してはスーツ着て終わりだったのでよくわからなかった。
2. 以前乗船した船と比較してジムは簡素なつくりのように感じたが、自分のように軽く利用したいと考える乗客にとっては十分な設備内容であったように思う。ダンスPARTYは参加者も限定的であり、また使用される曲のバリエーションも少なかったため、あまり満足できなかった。
3. ジムは一度だけしか行く時間が取れなかったが、海の上でのジムは開放感があり楽しかった。また、ダンスは例年通りとても楽しい！誰よりも赤井先生が積極的で私達学生側の方がバテてしまっていたが、もっと高齢の方も楽しんでいらして、本当に船全体で楽しもうという姿勢が素敵だと感じた。
4. ジムは一度だけの利用だったが、いろいろなマシンやバランスボールなどが揃っており充実していた。また、夕食時のダンスや毎晩開催されていたコンセプトパーティーは観客も巻き込んだもので、クルーズの非日常間を演出していたと思う。
5. 船内では特に何かをすることがなかったためあまり印象はない。ダンスパーティーはとても楽しかったが計画性がないのか終わり方がいつも微妙だったし音楽も毎回同じだった。ジムはガラス張りになっており海を見渡すことができた点がとてもよかった。
6. ジムが想像していたよりも大きな空間にあり、種類も豊富だった。ランニングマ

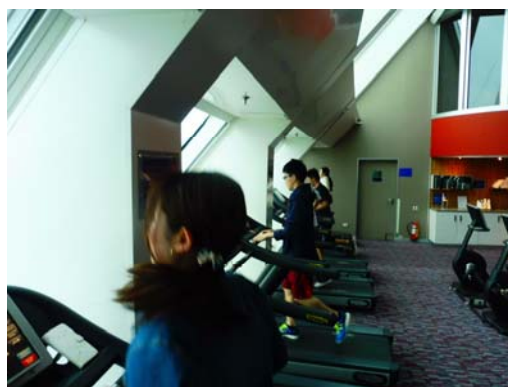


シンで走りながら海が見えたのが良かった。ダンスなどに関しては、日本人の特徴なのか、単に高齢な人が多かったからなのか参加率が低かったのではないかなと思う。ダンスが始まるタイミングで帰ってしまうひとがかなりいたように思う。

7. ホワイトパーティでは、DJのクルーが流す音楽にのってみんなで踊ることができ、今までにない体験ができた。普段は恥ずかしくてできないと思っけていても、クルーズ船の雰囲気、恥ずかしがることなくノリノリでダンスできた。また、皆が楽しんでいる姿を見ながら踊ると余計に楽しくなった。
8. ジムは主に朝利用していたが、タオルや水が常備されていて、とても快適に朝の運動ができたと思う。ダンスパーティーに関しては、普段ああいう場に行かない私でも楽しめ、最終日にはDJも参加してより興奮する場になっていた。しかし曲や動きのレパートリーが少なく、見知った動きが繰り返されていた面もあったと思う。
9. ジムは広さこそそれほどないものの、器具の種類、数は充実しており、満足できるものであった。ダンスパーティーは若者は十分に楽しめるものであった。しかしながら朝食をご一緒させていただいた日本人のご年配の方は、ダンスが激しすぎてとても参加できないと言っておられた。近年若者のクルーズが増えていると言っても、今回のクルーズでは時期的なこともあり、ほとんどがご年配の方であったため、浴衣ナイトの日限定で盆踊りをするなど、イタリアのテーマを維持しつつも、もう少し実際の年齢層に配慮したほうがよいのではないかと感じた。
10. 意外と本格的なジムがあって楽しかった。屋上にトラックがあったのも驚いた。みんなでダンスを踊った時は、疲れたが楽しかった。テーマナイトのときにもっとお客さん全体で楽しめたらよかったと思う。
11. 数回行われたダンスパーティーはめちゃくちゃ楽しかった。仮面や白コーデでみんな統一して踊るというのも斬新で楽しかったし、ダンサーの盛り上げ方も上手だったのでテンションを上げるのにそう時間はかからなかった。ジムは生まれて初めて行ったので見たことないトレーニング器具があって面白かった。
12. ダンスは普段しないし、文化にもないから、初めは大丈夫かと心配していたが、そういう人でも楽しめるようになっていて、すぐにのりのりで踊れた。ジムの設備が本格的で、体験できてよかった。
13. ジムの設備も想像以上に整っており、ランニングマシーンは海側にあったので走りながら海を一望できこんな体験はなかなかできないと感じた。ダンスは日本ではほとんどしないため新鮮で楽しかった。



14. ジムは二回ほど使用した。ランニングマシーンは目の前が海で、走りながら海を一望できるのでとてもよかった。ダンスpartyは、普段踊ることがないので、非常に盛り上がる事ができた。最後の夜ということもあり、いつもはできないことをできて楽しかった。
15. 夕食時のダンスタイムはスタッフの方ともほかの乗客の方とも触れ合えて、自然と笑顔になれた。ジムも利用した。海が目前に広がるランニングマシンはまるで海に向かって走っている気分になれて海上を動くクルーズならではの体験でも気持ちが良かった。ホワイトパーティーで参加したダンスパーティーが最も楽しかったイベントである。大音量のなかみんなで踊りまくるあのときは、とても心おどり時間も忘れて楽しめた。まさに非日常であった。
16. ジムの場所は先頭に位置しており、景色がきれいで進行方向を眺めながらすがすがしい気分であらった。そのほかホワイトパーティーの際はディスコでダンスしたが普段日本では体験できないようなことができてとても有意義であった。
17. ホワイトパーティーの後のダンスしか参加していないが、普段恥ずかしがってあまり踊らない僕だが、ダンスの楽しさを知ることができた。ただ、エンドレスで曲が終わってもすぐに次の曲が始まるので辞め時を因るのが難しかった。
18. ジムはとても楽しかった。なんて言ったって、「無料」で立ち入ることができるのが嬉しい。普段の生活ではそもそもジムになんて行かないし、行ったとしてもまず無料ではないだろう。体を鍛える機械の種類も豊富で飽きがこなかった。
19. ジムの器具を自由に利用できるのが魅力的だった。普段鍛えていない胸筋を鍛えられて満足した。ダンスパーティーでは流れている音楽が終わってもすぐに次の音楽が流れるのでエンドレスにダンスが続き疲れた。普段ダンスをしないので難しかった。
20. ダンスパーティーは参加するまではすごく抵抗があったが、参加してみたらものすごく楽しかった。日本人にありがちな殻を破ってはっちゃけることができた。一回ジムに行ったが、窓際にランニングマシンがあつて、海を見ながら走ることができるのが快適だった。
21. 施設ではカジノが楽しかったと思う。日本では経験したことが無い新しい経験が出来たので、負けはしたがいい経験になった。またダンスパーティーでは普段そんなことはしないのはじめての経験だったが少し長かったので疲れてしまった。



第3部 <各港での対応及び魅力>

(1) 乗船・下船港(舞鶴)での感想(港・ターミナルの施設評価、乗下船時対応の感想など)

1. 舞鶴の観光地について知らない部分が多かったものの、今回の案内で多くの魅力に気づくことができたと満足した。
2. 舞鶴港で対応にあたってくださった方々は総じて非常に丁寧に対応して下さった。施設・ターミナルは簡素な印象だった。港周辺に土産屋などの観光客向けのお店が少ない点や、また行違う人が少ない点にやや寂しさを感じた。観光客を案内するバスで立ち寄らないようにしている点を考慮してもである。
3. 舞鶴港はまだまだクルーズ船受け入れについては「これから」だと思う。ターミナルがないというような施設ハードについてももちろん改善する必要があると感じた。受け入れに関わっている舞鶴市の方々は皆さん総じて優しく心からおもてなししてくれた。
4. ターミナルに関しては、空き倉庫を利用したものがあり雨風はしのぐことはできたが、座ったりする場所は少ないように感じた。また、周りが倉庫であることからごちゃごちゃしたイメージを受けた。(倉庫の外観が完成したら、雰囲気も変わるのかもしれないが)
5. 自然に囲まれたのどかな雰囲気が非常に魅力的な港だと思う。現時点では施設は何もない印象だが今改修途中でありこれからは楽しみである。整備したコストに見合うだけのクルーズ観光客が増えることを祈りたい。
6. 舞鶴を最初に見ていてよかったと思う。そのあとに回った港の中でも最も深刻な問題のありそうな港だからだ。ちゃんと仮設とはいえ、ターミナルは存在していたが、クルーズ船の船員が下船して休めるような環境であるようには見えなかった。自動販売機でさえなかった。人が頑張っていたのは分かったが、ハード面の整備が必要に思う。
7. 釜山からの乗船で、やや手続きが複雑だったが、コストのクルーの人が丁寧に丁寧に対応して下さったので安心した。寄港地からの乗船がコストカードをかざすだけでできるというのは非常に便利だと思った。
8. 舞鶴に関しては、事前に自治体の方が説明していた通り、倉庫をそのまま活用したようなターミナルだった。倉庫の美装化を進めているとのことだったが、元と



似たような色をべた塗しているだけのようで、どうせならば舞鶴にちなんだ絵や舞鶴にゆかりのある画家の作品をぬればいいのにと感じた。

9. 舞鶴港では倉庫を改造した場所で乗船手続きを行うかたちになったことに関して特に不便は感じなかったが、駐車場が岸壁からやや距離があることは、一般客は不便に感じるのではないかと思った。また港が西と東に分かれていることに加え、とても大規模な港であるため、クルーズ船乗り場（駐車場）を示す看板を市内に設け、車で来る乗船客が迷うことのないようにしたほうがよいと感じた。
10. 倉庫の外装を塗りなおして、ターミナルに再利用しようという試みはいいと思った。ただ、日本らしい外装にしたということだったが、周りの舞鶴の雰囲気とは少し違うように感じた。
11. 特に乗船下船時の対応には不満はないし、スムーズに乗降できたので良かった。ただ舞鶴のターミナルは整備中という感じでなんか残念な感じだった。もっと港の整備が進めば魅力的な寄港地になると思った。（公園を整備するとか大きな物販所を設けるとか）
12. クルーズ客を迎えるために、倉庫を改良して待合室にしようという取り組みがよかった。自治体の人に、舞鶴になんとかお客さんと呼び込もうという姿勢がみられて、皆歓迎する気持ちにあふれていたように感じたので気持ちがよかった。
13. 乗船がスムーズに行われ正直驚いた。倉庫を臨時のターミナルとしていて少し驚いたが不自由さはなかったので、このようなターミナルも逆に面白いのかなあと感じた。クルーズ中は無料で停めることができる場所の提供は、車がないと観光が難しい舞鶴には非常に良い選択であると感じた。
14. 旅客ターミナルが倉庫であったりと、設備的には十分とは言い難いけれど、思ったよりも乗船するのに時間がかからなくて嬉しかった。乗船時の対応もスムーズだったので、乗るまでが非常に楽だったのでよかった。
15. ドライブ&クルーズというコンセプトで長期無料駐車場があるのはいいアイデアだと思う。あらかじめいくつも個人情報を渡しているからだと思うが、思いのほかすんなり乗船できて驚いた。港は穏やかな海町といった感じであったが、ターミナルから一気に空港にきたような異国感になりワクワクした。
16. 舞鶴は海の京都ということもあり、舞鶴から京都に観光に行くルートづくりは船の停泊時間の関係もあり難しいため近くで観光できる場所を客層を絞ってもっと提案していくべきである。
17. 倉庫として使われていた建物を臨時の旅客船ターミナルとして使用しているとい



うこともあり、釜山や福岡に比べて施設が充実しているとはお世辞には言えなかったが、臨時に地元の飲食できるブースがあったり、また歩く距離がそれほど多くなかったのもその点は快適であった。

18. 乗船はとてもワクワクで、下船はおりたくない気持ちでいっぱいだった。倉庫で仮設された待合所は好きじゃなかった。博多港のようにしっかりした建物があれば嬉しいなあと感じた。
19. 何もなかった。せつかく寄港地があるのに店がないのはもったいなく感じた。
20. スタッフの方々がとても笑顔で迎えてくれたので、これから始まるクルーズに対する不安が和らいだ。帰りも温かく迎えてくれたので、帰ってきてホットした。舞鶴引揚記念館で学んだことがすごく印象に残っていたので、温かく迎えてくれる舞鶴の人たちの人柄の良さをかみしめた。
21. ふ頭周辺に飲食施設が大変少なく雰囲気も寂れた感じで少し物足りないかなあというのが正直な感想である。ターミナルは仮設のものが建設されており、そこに地域の飲食店などと協力して出店などを出せばもっと活気が出るのではないだろうか。

(2) 舞鶴港での感想（視察ツアー・寄港地の魅力）

1. タワーから見た湾の落ち着いた雰囲気がとてもよかった。海鮮もとてもおいしかった。
2. 舞鶴港周辺ではなく、舞鶴全体をバスで周遊するルートであった。各スポットの魅力度は他の寄港地に比べ遜色ないように思うが、集中的に観光特化した地点がないこと、スポットが分散していること、が舞鶴の魅力度を減じている要素ではないかと思った。
3. 舞鶴周辺をバスですっと移動するツアーであり、時間がかなりキツキツだった印象。一つ一つの観光地自体はとても興味深く魅力の大きいものであると思ったが、立地が分散しており何を押し出したいのかというビジョンが明確でないところが、舞鶴の寄港地としての魅力をやや下げているのではないかと感じた。
4. とれとれセンターで食べた舞鶴の海の幸はどれも新鮮でおいしかった。また、レンガ博物館や引き上げ記念館など観光の拠点となるものは整備されているように感じた。しかし一方で、他寄港地との比較をされたときに正直劣って見えてしまうところはあった。
5. 舞鶴は「京都」に縛られていたら失敗すると思う。京都としてのプライドは捨て



舞鶴としてのブランド確立に全力を注いでほしい。特に舞鶴の西と東とで対立しているようだが、敵を見誤っているとしか思えない。しっかりと連携して頑張ってもらいたい。

6. 舞鶴は残念ながら、交通インフラがしっかりと整備されているとはいえ、車に頼らなければ観光することは明らかなに難しい。今回はバスでいろいろと案内してもらったため、舞鶴もいろいろあるものだったと思うが、車がなかったらどこに行くこともできず、他の寄港地とことなりこれといった名産品のようなものもない。ただ、観光地自体は十分持っていると思う。
7. 釜山からの乗船のため省略
8. 商店街はシャッターが多く現状を学んだ。人が歩くことは自然だと思うが、大人数が歩くことが珍しいのか、地元住民が不自然そうに見ているのを感じたのが印象的だった。クルーズ誘致や観光客の観光効果のことよりも、自治体だけでなく地元住民を挙げて観光客を歓迎する土台作りから始めるべきであると感じた。
9. 新鮮な海産物や今回視察させていただいた赤レンガ倉庫、引き揚げ記念館など、舞鶴にはより多くの観光客を呼び込めそうな魅力的な要素が多くあるが、それら全てをPRするゆえに舞鶴といえばこれといったイメージが人々の間で形成されていない。どれかひとつを強調し、人々の間で舞鶴のイメージを形成することがより多くの観光客を呼び込むことへの第一歩であると感じた。
10. とれとれ市場は思ったほど広くなかったため、焦らずに見て回ることができた。いすや机も十分置いてあったのでゆっくり座って食べることができた。舞鶴には初めて行ったが、自然や歴史など様々な観光資源があるということが分かった。
11. 舞鶴には地元が近いこともあって何回か訪れたことがあったが観光地っぽいところには行ったことがなかったので逆に新鮮で楽しかった。ただシャッター商店街やバスで1000円かかる展望台などに田舎の限界を感じた。私は舞鶴はもっと軍港としての魅力を全面に押ししていくべきだと思う。
12. 商店街が活気がない印象を受けた。が、クルーズ客向けにカフェやプラザを開放しているのはいい取り組みだと思った。展望台まで行くバスが片道1000円は高いと思った。引き上げ記念館の学芸員の方のお話に胸を打たれた。もっとたくさんの人に訪れてほしいと思った。
13. とれとれセンターで食べる新鮮な魚や五老岳から見る港の景色は非常に素晴らしかった。海の京都を感じることができた満足度の高い視察ツアーであったと私は



思う。また、場所は少し離れていたが舞鶴引揚記念館は家族とまた訪れたいと思える価値のある場所であった。近くに住んでいるからこそ知らない、わからない舞鶴・海の京都の良さを感じることができた。

14. 舞鶴には初めて訪れたけど、商店街を歩いたときは、閉店したお店が多く驚いた。とれとれセンターや赤れんがパーク、五老スカイタワーなど西舞鶴の有名なところも多くあるので、意見交換会でも話し合ったように、いいところと改善していくポイントを今後見直していく必要があると思う。
15. 始めて見るイージス艦にテンションが上がった。しかし閑散とした商店街には驚いた。舞鶴は西と東で全く異なる顔を持つ不思議な地域だ。それを強みに地域振興できるに違いない。しかし、観光スポットが各所に散らばっているため、自治体の方との話し合いでも言ったが、テーマを定めてツアーコースを作ったりしたほうがめぐりやすいだろうと感じた。
16. 舞鶴には初めて訪れた。印象として京都にはないような開けた土地で展望台からも眺めたが、見晴らしがよく素敵な地形だと思った。西は観光、東は歴史や軍事施設という全国でもまれな二面性を持つ都市で興味深かった。
17. 視察ツアーでは、個人的に好きな五老岳を含む、様々な施設に足を運べたのが良かった。他の港と比べ、レンガや山といった海に因んだもの以外の魅力があるのが印象的だった。ただ、少しスケジュールがタイトすぎる気がした。
18. 閑散としているなと思った。特に商店街は本当に何もない感じがした。本当にここにクルーズ船があるのかとさえ思った。とれとれ市場は面白かった。ただ自然は一流だったので、やっぱり舞鶴市で発言したように、無料の自転車貸し出しを行って、海や山を冒険するのがウケるのではないかと感じた。
19. 新鮮な海の幸を食べることができ、良い意味で京都らしくなかった。商店街はシャッターを閉めている店が多かった。商店街の店で共通に利用できるクーポンや割引券、ポイントカードがあれば活性化するのではないかと考える。
20. 個人的に舞鶴のツアーが一番面白かった。舞鶴引揚記念館や赤レンガ館で舞鶴の歴史を知ることができてとても勉強になった。東郷平八郎の肉じゃがの話も印象に残っていて、将来社会科の先生になったときに小ネタとして使えそう。
21. 舞鶴は京都でありながら、京都らしくない所謂、海産物が食べられるところが非常に強みなのかなあと私は考えた。とれとれセンターなどにレンタル着物で行けば割引があったりするとより色んな人が着物やとれとれセンター、引いては舞鶴に魅力を感じてくれるのではないかと感じた。



(3) 金沢港の感想（乗船下船時対応の感想、視察ツアー・寄港地の魅力）

1. 21世紀博物館、兼六園、金沢城、近江町市場という魅力的な観光地をバスを整備してうまく結び付けているな~と思った。観光客を町全体で迎え入れよう！という姿勢が伝わってきた。普通の観光では行くことのできない日本酒蔵に行って、とてもおいしい日本酒を飲めたのも貴重な経験でした。
2. 港で対応にあたってくださった方々は総じて非常に丁寧でした。金沢は庭園や城跡、美術館など観光資源も多く、国内外の観光客ともに楽しめる観光地のように思う。シャトルバスがあったのも良かった。
3. 舞鶴に比べると、非常にクルーズ受け入れ体制が整っていると思った。また、金沢自体がかなり観光についてハード面での整備が整っている印象を受けた。市内を回る周遊バスや、港から市内へのアクセスなど非常に整っており、移動が楽だった。美術館をはじめとして、庭園や町並みなど非常に観光資源に恵まれているものもあるが、このような整備も大切だと感じた。
4. 港から観光の中心である市内へ近く、兼六園や21世紀博物館など見て回る場所はほかの寄港地と比べ多くあるように感じた。醤油蔵や酒蔵では、しょうゆソフトや日本酒の試飲などがあり見るだけでなく体験することができ、金沢を楽しむことができた。
5. 舞鶴の後だったためか金沢が本当に充実していることを改めて感じた。寄港地の魅力としては何よりも観光資源が豊富であること、そしてそれを最大限に活用できているところかと思う。これからも今の調子で北陸の中心を担って行っていただきたい。
6. 金沢港も仮設のターミナルだったが、しっかりと整備されていたように感じる。金沢のいいところは、一度バスで駅の方へと出るとそこからはいくらでも観光できる場所だと思う。舞鶴とは違い、駅の方へ行くとそこからさらにバスを使えば行けないところはほとんどないように思う。
7. 釜山からの乗船のため省略
8. 大和醤油味噌では、「麴」と「糀」の意味の違いや発酵の具体的な仕組みを詳しく教えていただいた。日本酒の老舗福光屋では日本酒の試飲が行われたが、未成年の私は発酵過程を抜いてアルコールの含まれないライスミルクしか飲めなかった。金沢は道も広く、電線も地中化されているようであって、大都市にしては緑が多い印象である。
9. 特に不便は感じなかったが、貨物と供用の岸壁であったため、景観はあまりよく



なかった。視察ツアーは地域の産業に直に触れることができ有意義なものであった。また金沢は二十一世紀美術館や兼六園など、今回の寄港地の中では最も観光資源が充実していると感じたため、港の整備を進めることができればより多くのクルーズ船の寄港を見込めると思う。

10. 下船時に加賀友禅美人の方がいらして、写真を撮れたのが思い出に残った。醤油の力に触れたり、加賀の日本酒に触れたりして、しょうゆや日本酒に対する知識が深まり、見方も変わった。自由行動の時間に21世紀美術館に行ったが、展示品がどれも面白く満足だった。金沢に行ったのも初めてだったが、歩道が広くて歩きやすく、自然も多く、街並みも落ち着いていてきれいだったので、21世紀美術館だけでなく、またほかのところにも行ってみたいと思った。

11. 金沢は最近人気急上昇の街とだけあって町並みも綺麗であるし、活気もあるしで非常に爽やかな印象の街だった。近年再開発されたためか道路やビルがどれも新しく舞鶴との違いを感じた。近江町市場で食べた海鮮は彩抜群で、特に、のどぐろの美味しさは忘れられない。21世紀美術館の個展もとても素晴らしかった。ミス加賀のお姉さんが可愛かった

12. 醤油やお酒の工房で、いろいろ体験ができて楽しかった。近江町市場の活気がすごかったが、海鮮丼は観光客向けか少し値段が高いと感じた。金沢の町は道がフラットで広いため歩きやすく、緑も多く、案内板等が豊富に設置しており、観光客の散策に適していると思った。



13. 金沢で食べた醤油ソフトクリームが私は忘れられない。普段あまり冒険しないほうだが今回は挑戦してみてよかった。(株)ヤマト醤油味噌の玄米甘酒は母が毎日飲んでいるものであるため親近感がわいた。そこで話を聞き、改めて体にいいものであることが認識できたので家族にも伝えていきたいと思った。また、有名な兼六園にも行け、初金沢は私の中でいい思い出となった。

14. 金沢では、ヤマト醤油味噌や福光屋に行き、色々なものを飲食できたので楽しかった。初めて醤油ソフトを食べたが、キャラメルのような味で美味しかった。福光屋では日本酒を試飲させてもらった。初めて日本酒を飲んだが、なかなか癖が強かった。自由時間では、短かったが、初めて金沢観光できてよかった。

15. 麴の話から始まった金沢港のツアー。醤油アイスは癖になる美味しさ。体にいいものを沢山摂取できた。兼六園にも初めて行った。近江市場での海鮮丼は絶品であった。金沢を一日散策して思ったのは、思っていたよりもずっと人が多かったことだ。外国人だけでなく国内観光客も多くいたのはやはり新幹線の影響だろうか。

16. 醤油蔵や酒蔵見学はなかなかない体験だった。バスで見学した酒蔵では一見してそのお店が日本酒のお店であるとわかりずらかった。周りもシャッターが閉まっているお店が多く地域の課題が見えた。
17. 昔金沢に6年間住んでいたが、その僕でもまだ行ったことのない酒蔵や醤油店を視察でき、金沢の知らない一面を知ることができて良かった。今回のクルーズの中で、金沢は一番海産物が賑わっており、普段食べられないような魚も味わうことができた。
18. 金沢港でまず面白いと思ったのは、「加賀友禅美人」のお出迎えである。あのサービスはきっと外国人ウケが良さそうとおもった。しかし、法規制のせいで、わずかな距離なのにわざわざバスに乗って港内を移動したのはしんどいと感じた。視察ツアーで困ったのは、醤油工場や歴史ある酒蔵に行ったものの、お土産として醤油を買って船内に持ち込めるのかというものであった。結局、液体を没収されるのではと危惧してしまって買うのをやめた。
19. 酒や味噌を作る工程を学ばせてもらった。自分が酒味弱いのであまり楽しめなかったが、試飲させてもらったのは飲みやすく美味しかった。
20. ミス金沢の人が迎えてくれたのが驚いた。酒蔵や醤油屋さんを訪問し、金沢が歴史的な街であることを感じる事ができてよかった。市場で食べた魚が本当においしくてまた金沢を訪れたいと思った。
21. 金沢では日本酒やお味噌の製造を見学させてもらった。普段あまり見る機会がないので貴重な経験だと感じた。また自由行動の時間には兼六園に行き自然豊かな庭園を見学できた。また近江町市場での海鮮丼も非常に美味であった。



(4) 境港港の感想（乗船下船時対応の感想、寄港地の魅力）

1. 水木しげるロードに行ったが、町全体で観光地を盛り上げようという姿勢がとてもよかった。（郵便局の標識、タクシーの上に目玉おやじのランプ、電柱の上のライトが目玉おやじ）
2. 水木しげるロード周辺はゲゲゲの鬼太郎関係商品・サービスで賑わっていたように思う。しかし、鬼太郎関係の似たような土産屋が乱立しているだけのようにも思え、非常に日本的な町おこしな手法というか、訪日外国人観光客には楽しんでもらえるのだろうか？とも思った。

3. 境港といえば、鬼太郎、というイメージのある人も多いと思うが、それをかなり押し出している感じであった。とにかく自然や空き地が多く、バスがなければ移動が苦しいと感じた。ただ境港周辺には観光資源が多く、また鬼太郎ロードという目玉を持つことで方向性がはっきりしており、観光振興について境港市で一つの方向を向いて進めていっているのだなという印象を持った。
4. 水木しげるロードなど、境港の強みを押し出し観光を展開していた。美保神社に関しては、訪問するまで知らなかったが、お社も大きく趣のある場所だった。また、神社周辺の海岸線沿いは景色がきれいだった。
5. 自然が豊かで、でも観光資源はしっかりと持っておりとてもいい場所だと感じた。鳥取は昔から縁があり毎年何度も通っていたところではあるが港から入るのは初めてで鳥取の知らなかった側面を見れた気がした。そしてやはり同じ自然に囲まれており観光資源もあるはずの舞鶴の政策の課題を痛感した。
6. 境港もきっと舞鶴のような感じが出てるのだろうと思ったが、舞鶴とはちがって、山がなかったのも、印象はだいぶ違うものだった。バスで観光したが、自然がすごくきれいだった。たしかに釜山、博多、金沢、と比べると移動が難しかったりするが、それでも私の印象では舞鶴とは大きく違って、しっかりと観光客を呼び込めるのではないかと思った。
7. 釜山からの乗船のため省略
8. 境港は道が広く空き地が多く、土地が余っているように感じた。水木しげるロードは一見何の変哲もない商店街だが、妖怪というテーマを当てることにより観光客を呼び込むことに成功した稀有な例であると思うので、観光客不足に悩む全国の地方都市は一例として参考にすべきだと思う。
9. 出国手続きを船内で行ったり、商業用岸壁に着岸するなど、クルーズ船受け入れのための港湾整備がまだまだ進んでいない印象を受けた。視察ツアーで訪れた美保関、江島大橋は魅力的だがアクセスの悪さが課題であると感じた。また水木しげるロードは魅力的な観光地であるが、クルーズ船の乗客と思われる人が少ない印象を受け、多くのクルーズ客が松江城や出雲大社に流れているのではないかと思った。このままでは境港を通過して、島根県がその恩恵を受けるといった構図になりかねないと感じた。
10. バスで視察ツアーを組んでくださっていたが、そのコースがどこもよかった。展望台からの眺めは美しく、美保関神社の味わいある歴史に触れ、べた踏み坂を体験できて非常に良かった。移動中もほとんどずっと海が見えていたのも楽しかった。



水木しげるロードでは、私はあまりゲゲゲの鬼太郎に詳しくないので楽しめるか分からなかったが、行ってみると雰囲気が出てとても楽しめた。町全体で盛り上げようというムードになっているのいいなと感じた。大山ソフトクリームもとても美味しかった。

11. ザ町おこしに成功した街という感じの印象を受けた境港は、水木しげるロード以外は土地が余りまくってるなと思った。夢みなとタワーは他の観光地から少し離れており高さも余りないので正直立ち寄るほどの施設ではないのかなと思った。個人的には美保関神社とその周辺の町並みがどこか哀愁漂う感じで好きだった。
12. 港を中心に全体的に緑と海の自然が素晴らしい町だった。水木しげるロードは、どの店も一貫した雰囲気をもっており、町をあげて取り組んでいる感じがよいと思った。ただ、しげるロード以外にも見どころを作る必要があるのでは、と感じた。
13. 境港はバスに乗っている時間が多かったが、バスから見る海も非常にきれいで移動時間も有意義だったと思う。鳥取県西部であったので島根県的美保神社に行き、丁寧な説明を聞いたことがよかった。水木しげるロードでは、そのロード全体のムードがとてもかわいらしく目玉の街灯をみたときには興奮した。あまりゲゲゲの鬼太郎には詳しくない私でもとても楽しめた良い場所であった。
14. 水木しげるロードが一番思い出に残っている。水木しげるロードは、ちょうど良い長さで観光しやすかった。港までのバスもあったので、非常に便利だった。べた踏み坂や夢みなとタワーも観光できたので非常に満足した。
15. 水木しげるロードはもちろん面白かったがロード外が閑散としており、地域振興の限界が垣間見えた。美保関で聞いた恵比寿様のお話は初めて知ったので驚いた。街そのものにストーリーがあって、今でも鳥を食べないなんて、神秘的な地域だなと感動した。
16. 日本一低いタワーに上ると鳥取の地形がよくわかり、見渡す限り続く砂浜とすぐ後ろに山が迫る風景に感動した。個人的に日本の寄港地の視察ツアーの中で美保神社が素晴らしかった。出雲大社は有名であるが美保神社は知る人ぞ知るスポットとしてあり続けてほしい。
17. 他の港と比べて港の規模は小さいものの、その分静かで落ち着いており、べた踏み坂や妖怪ストリートなど各観光地へのアクセスが比較的近いことが魅力的だった。また、敢えて日本一低いタワーと宣伝しているのが斬新で面白いと思った。



18. 金沢の翌日に境港に行った。港の演出の豪華さは金沢ほどのものではなかったが、金沢以上に海産物は美味しかったし、タワーも「日本一低い」というアイデンティティがあってユニークだったので満足した。美保神社とその周辺地域は少し離れているが歴史や町並みが素敵だったので、もう一度行きたい。水木しげるロードは時間も無かったせいか、そこまでじっくり満喫はできなかった。境港（さかいみなと）市にあっても境港（さかいこう）というネタはウケがいいです。
19. しげるロードは妖怪を探しながら観光できるところが面白かった。他に特筆するようなものはなかった。
20. はっぴを来て迎えてくれたのが印象的で、その土地の人柄の良さが出ていたように思う。境港駅は有名なゲゲゲの鬼太郎一色に染まっていて特徴的だった。
21. 境港ではべた踏み坂や水木しげるロードを観光した。水木しげるロードは一度家族と行った事があり、目新しさは特に無かった。また、舞鶴、金沢と海鮮が有名な港に寄港した後だったので、海鮮に特別感はなかった。

(5) 釜山港の感想（乗船下船時対応の感想、港地の魅力）

1. 甘川文化村に行ったが、街の雰囲気楽しくかなりテンションが上がった。
2. 着岸した港は、バースも長く、ターミナルも大きかった。その割に観光客への案内対応は簡素にも思えた。釜山は人生で初めての来訪であり、新鮮だった。韓国の経済成長は進んでいるが、街並みの整備等はまだまだ進んでいないように思った。
3. 釜山は、去年の上海のように非常にターミナル整備が整っており、ターミナル自体の大きさに驚いた。また、港と市内を結ぶシャトルバスが運行されていたのも好印象であった。釜山には初めて来たので、その英語表記の少なさには恐怖を感じたが、買い物や観光など非常に楽しかった。また、町並みの少しごちゃごちゃした感じも昭和の日本を彷彿とさせる発展途上感があり、親しみを覚えた。
4. 赤井ゼミはショッピング組と文化村組に分かれたが、短い寄港時間で釜山を回ることにはできなかった。時間がもう少しあれば、ショッピングもできたのかなと思うともう少し長く滞在したかった。文化村自体はインスタ映えしそうな景色で写真を撮って楽しむことができた。
5. しっかりと整備がされており好印象だった。特に文化村はとても魅力的な街であり本当に言ってよかった。



6. 明らかにクルーズ船でやってくる観光客を迎える設備が整っていた。空港とほとんど変わらない施設で淡々と入国の作業を進めていく感じがよかった。釜山観光については、事前により調べていなかったため、どこに何があるのか全く分からずに終わった。ただ、まったく自分が使える言語を使えない空間にいるということが楽しかった。
7. 釜山港から市街地まで無料シャトルバスが出ているというのは一つの大きな魅力だと感じた。さらに市街地が港からそれほど遠くないので、4時間もあれば十分に観光や買い物を楽しめるため、釜山港はアクセスの面では非常に便利な港だと思う。
8. 海からプサンを一望すると、山に囲まれた湾に都市が発展しているという風で、長崎を思い起こさせた。プサン港では入国審査や下船の処理がかなりスムーズで、海外に来たのだとあまり感じなかった。港を出ると一面ハングルで、ここで初めて海外の実感を得た。プサンは栄えている場所とあまり栄えていない場所の格差が激しいように感じた。
9. ターミナルが整備されており、スムーズに入国できた。日本に比べてタクシー値段が安く、気軽に使え、かつ間違いなく目的地までたどり着ける点は韓国語が分からない外国人観光客にとってはとてもありがたかった。また韓国第二の都市、かつ夕暮れ時の出航ということもあり、とてもきれいな夜景が楽しめた。
10. 海外に行ったことがなかったので、朝港に着いて外を見て、「日本とは違う」と感じた。家や建物が山の中腹まで一面に建てられていて圧倒された。降りてからは当然ながらハングルばかりで何も分からず不安になったが、日本語が分かる方が多くて安心した。政治的な日韓関係はあまりうまくいっているイメージはなかったが、市民レベルの交流は盛んであることを実感した。
11. 今回初めて韓国に行ってなぜか韓国のおばちゃんにもてた。けどあまり嬉しくはなかった。本場でチゲを食べたあと甘川文化村に行ったがカラフルな町並みが非常に美しくなんともインスタ映えのする街であった。案の定写真も撮りまくった。タクシーも以外と安かったので電車を使わずともどこでもいけるなど思った。
12. 釜山港が一番大きくて整備されているように感じた。町自体は、難波のアメ村のような雰囲気、発展途上の都会という感じだった。道があまり整備されていなくて、歩きにくかったのと、車も走りにくそうにしていた。港と町をつなぐバス



の乗務員さんがホスピタリティにあふれていて、感じがよかった。

13. 多くの荷物が港にあり以前行った神戸港を思い出した。入国の際、気のせいかもしれないが飛行機で空港から入国するときよりチェックが緩く感じた。30分に一本出ているシャトルバスがあり市街地に行くのに便利であった。プサンは初めて訪れたが想像していたより田舎ではなく驚いた。日本より下水設備が整っていないのか匂いが気になったが楽しく観光できた。
14. 韓国は何度も行ったことがあるが、釜山は初めてだったので、とても楽しみにしていた。乗船下船もスムーズであった。韓国の政治状況から危険かもしれないと思っていたが、全くそんなことはなく、とても楽しく観光できた。
15. 韓国は以前からずっと行きたかった国なのでとてもワクワクしていた。韓国語を履修していたので、文字が読めると嬉しかった。コスメやかわいいものがたくさんあり終始興奮していた。しかしとても驚いたことがある。韓国ではトイレトペーパーをトイレに捨てる習慣がないらしく、個室に用意されたゴミ箱にそのまま捨てていた。それも日本にあるサニタリーボックスの様に蓋があるわけでもないのだ。とても不衛生。目を疑った。韓国に留学に行ったゼミ仲間に聞いたところ、韓国ではすぐに下水官が詰まるらしい。あんなに見た目もきれいでかわいいイメージの韓国だが、確かに路地に入るととても下水臭かった。あの大手企業のLotteビルのトイレでさえこのありさまだ。下水設備の不完全さが伺えたと同時に、日本は郊外どこにいても比較的下水設備が整っている方で、素晴らしいことだと改めて実感した。
16. 釜山では海の玄関口としての入国検査があった。港からのバスも便数に限りはあるが無料で接客も丁寧だった。
17. まるで空港のようにターミナルが大きく、お店も充実しており、日本とはクルーズの需要度が異なっていることを認識させられた。初めての韓国だったが、いい意味で外国っぽくなく、韓国料理やショッピングを楽しんだ。
18. 朝、船内から釜山港を眺めたときその巨大さにまず驚いた。日本のように分散させずに一局集中させたことであそこまで発展させることができたのだな、と感心した。また、港の施設もしっかりしていて(エスカレーターが面白かった)受け入れ体制が整っているなど感じた。日本とは違って、シャトルバスが無料なのも魅力的だった。
19. ターミナルが非常に大きく、空港にいるような感覚がした。韓国では、日本と異なり、クルーズが人気でメジャーな娯楽あることがわかった。物価が異なり、同じものがより安くで手に入るのショッピングを楽しむことができた。



20. 入国審査が必要だったが、スムーズに行われていたのが良かった。寄港地は下水道設備が良くないのか、空気が悪かった。商店街のような店がたくさん並んでいて人が大勢いるところでもすごいスピードで走ってくるバイクや車がいたので、危ない街だと思った。
21. 釜山は初めての外国ですべてが新鮮で何もかも楽しかった。昼食は釜山の韓国料理を頂き、おやつにソルビンで有名なカキ氷を食べた。お土産を見にロッテモールを散策、後コスメショップなどで女子のお土産を見ながら帰った。

(6) 博多（福岡）港の感想（乗船下船時対応の感想、寄港地の魅力）

1. 博多はよくいくが、今回は駅周辺をゆっくり観光できてよかった
2. 国土交通省の方も港に来て下さり、大変丁寧に対応して頂いた。これまでの寄港地と比較して、やはり博多は一部の市街地だけでなく都市全体で観光への対応がなされているなと感じた。観光バスによる道路渋滞が甚だしいと聞いていたが、下船した日は平日だったためか、あまり気にならなかった。
3. ターミナル設備が整っており、他のクルーズ船も一気に何隻も寄港できると聞き、クルーズに対して力を入れていることがうかがえた。ただ、市内へのアクセスがそこまでよくないのはもう少し改善できるのではないかと思う。また、「観光」と言われると思えば浮かぶ場所が少ないが、福岡市の方の情報提供により神社など行くことができ楽しめた。
4. クルーズ船用のターミナルがあり、クルーズ受け入れ態勢が整っていた。岸壁の延伸工事も進んでおり、今後さらに受入に積極的に取り組んでいく方向性が見られた。博多も金沢に劣らず、観光に対応した都市であり楽しむことができた。
5. クルーズ寄港回数が飽和状態にあるだけあって、今までの港とは比べ物にならない程しっかりと整備されていたのが非常に印象的だった。都市として確立しているため安心して港の視察をすることができた。
6. 今回の寄港地の中で最もよかったと感じたのが博多だ。博多の場合、ターミナルもしっかりとしており、そこから外に出るとちゃんとバスが走っており、それに乗ると博多駅までいける。博多まで行くとそこからは移動も簡単なうえ、観光もできる。さらに新幹線が通っているため、大阪からだったら、舞鶴に行くよりも博多まで新幹線で来る方が早いのではないかと考えた。



7. クルーズセンターの設備が非常に充実していると感じた。無料のWIFIであったり、移動経路に雨の日のための屋根が設置されていたりと、港の利用者に非常に配慮した作りだった。また、入国審査の導線も非常にわかりやすく、スムーズに通過できるようになっていた点が素晴らしかった。
8. 博多港はクルーズセンターと称したクルーズターミナルが整備されており、他港に比べてスムーズに乗船下船ができた。博多では街の守り神がいるとされる櫛田神社を訪問した。博多祇園山笠で実際に使用されていた、身長をはるかに超える山車に圧倒された。ラーメンの街博多でも特に有名な一雙という店で本場の博多ラーメンに舌鼓を打った。
9. クルーズセンターが整備されていてとてもスムーズに入国することができた。正直これといった観光地はないように感じたが、日本海側で最も発展している都市という点で他の金沢、舞鶴、境港といった比較的小規模な寄港地との差別化を図ることができる点は強みであると感じた。
10. 私は熊本出身なので博多にはこれまで何度も言ったことがある。しかし、約1年ぶりに訪れたこと、海外から帰ってきて初めての寄港地だったので、とても安心感があり一番楽しかった。博多港の取り組みの説明も分かりやすかった。たまに熊本県の港の話題も出てきたこともあって、寄港地の中で一番興味をもってお話を聞くことができた。久しぶりに博多の街を、短い時間ではあったが歩いて楽しかった。すーさんが長い間見送ってくださっていて少し感傷的になった。倉本先生が、「お別れは船がいい」とおっしゃっていた理由が、実感をもって分かった。九州の良さを再認識できた1日になった。
11. 博多は九州の玄関口として寄港地には文句なしの都市だと思う。ターミナルも整備されていて近くの建物からクルーズを見渡せるのも魅力的だと思った。交通機関も発達しており観光には困らないと思う。客船の寄港一位の座に奢らずこれからも日本のクルーズ振興を引っ張って行ってほしい。
12. 博多港の視察では、実際にふ頭を見ながら自治体の人の話を聞いたので、とても分かりやすかった。国際ターミナルは、基本的にきれいだっただが、国際なのにトイレが和式ばかりなのはどうかと思った。博多駅はガラス張りでもとてもきれい。
13. 私は横浜港が日本一の寄港地だと勝手に勘違いしていたため博多港が日本一の寄港地であることに非常に驚いた。日本の他の寄港地より設備が非常に整っており感激した。パンク状態のため他の寄港地と連携するのはいいことだと思った。博多ラーメンは個人的に好きではなかったが、櫛田神社等の福岡観光を少しでもできて



よかった。もっと他にもおいしいものや有名なものがあるようなのでまた行きたいと感じた。

14. 博多は行ってみたいと思っていたので、非常に楽しみにしていた。旅客船ターミナルも空港のようで、大きくて設備が整っていた。博多では、美味しいラーメンも食べれたし、観光もできてよかった。また行きたいと思った。
15. 博多港が日本一の寄港地であると知り驚いた。日本一の寄港地は東京周辺だと思っていたが、日本へのクルーズ来航客の半数が中国からであり、博多港が最も中国に近い港湾であると聞いて納得した。多数の客船を一度に受け入れるための港湾構造とシステムに、よく考えられているなと感激であった。本場博多ラーメンもいただいた。濃厚な豚骨ラーメンが最高であった。
16. 下船してから出るまでバスではなく可動式の歩道なのは他の地域と違って画期的であった。博多の魅力は観光資源が他より比較的集まっており、観光地しやすいことである。
17. 博多は日本のクルーズの40%のシェアを占めているということもあり、日本の他の港と比べて段違いにWi-Fiや飲食店といった設備が整っており、釜山に似ていた。地理的条件から博多はとても寄港地として恵まれているので、他の港は違った観点で特色を出していく必要があるな、と感じた。
18. 日本の港では一番たのしかった。FreeWi-Fiをはじめとする、船のクルーからの人気を集める政策は素晴らしいと思った。地理的条件に加えて、このような政策を打ち出した博多港にはもうどこも太刀打ちできないと感じた。（横浜には是非がらばってほしいけれど。）
19. 昼食のとんこつラーメンが美味しかった。日本一の港と知り驚いたが、中国に最も近い港と聞いて納得した。
20. 港から繁華街への交通アクセスが非常によいのが強みである。自治体の方がおすすめの観光地や交通アクセスを丁寧に教えてくれて親切だった。また、博多はラーメンが有名だが、下船できる昼間に空いていない店が多かったのが残念である。
21. 博多には一度も行った事が無く、有名な博多ラーメンや山笠が見られてすごく楽しかった。また昨年11月頃に博多駅前の道路が陥没する事故が発生したのは記憶に新しいだろう。その現場も今では普通に自動車が走っていて整備が進んでいるんだなと感心した。



第4部 <船上講義：スマートクルーズアカデミー>

(1) 学生提言：事前準備から、発表までの感想、大学間交流としての意義

1. 大学が異なることで多様な意見が出て、発表もうまく準備できた
2. 聞いたような話だが、大学は人口構成の一定の特性を持った層を抽出した空間であるから、多様性に欠けており意見も極性化しやすい環境と思われる。その意味で、異なる大学間での交流は望ましいことだが、意見交換が適当に行われたかどうかは本質的には重要である。今年のSCAでは、事前に簡便ながらも顔合わせと打ち合わせの機会をとって頂けた（0501だったと思う）おかげで、昨年度に比べて準備は多少進めやすかったように思う。
3. 事前に集まり、みんなで考えるという時間はほぼ取れなかったもので、基本的にはSNSでのやり取りになった。しかし、班長であった私が出港前は非常にゼミのことで忙しく、全員の意思疎通をうまく図れていなかったのは非常に申し訳ないと思っている。結局はかなりの部分を自分一人で作成してしまい、大学間での交流を深めることができなかった。他の班でも同じようにうまく意思疎通が図れず、大学間での関係性が不和になりかけたという話も聞いたので、班運営については今後の課題を学ぶことができた。
4. 事前準備では同志社大学生との連携がうまく行かず苦慮したが、何とか発表できて安心した。船に乗ってから詰めた部分も少なくなかった。赤井ゼミは普段、他大学や他ゼミとの交流が少ないため新鮮な体験だった。
5. 事前準備としては、私が何か言わない限り何も進まないため最初は本当にやりにくかった。ただパワポをお願いしたらきちんと作ってくれたのでそれは良かった。大学間交流という面で考えると、交流する機会をうまく作り出せなかったもので、反省している。よい経験ができた。
6. 準備の段階であまりコミュニケーションが取れていなかったもので、うまく発表内容が決めきれなかった。同志社のひとと意見が異なることもあり、結局それに対応することができる前に本番が来てしまったので、言いたいことを言えていない気もする。観光地を選ぶということだけでうまくいかなかったもので、普段関わっていない人とのコミュニケーションの難しさを実感した。
7. 普段一緒に勉強しない大学の人と一つのプレゼンを作りあげるのは貴重な経験で



あったが、顔を合わせて話し合う時間が少なく、メッセージ上だけでのやり取りで準備を進めるのが大変だった。

8. 個人で案を考えるとところまではスムーズにいったが、班の顔合わせと同日にリーダー決め、テーマ決めやその後の仕事の割り振りまで決めるには少し時間が足りなかった印象がある。発表に関しては、会場がタンゴディスコというある種カジュアルな場で発表できたので、当初想像していたよりかは緊張せずに発表できた。同志社大学の学生とも交流でき、お互いの大学生活について知るといふ点で意義があったと感じている。
9. 二つの大学で班が構成され、互いの人物像を十分に把握できていない、顔合わせをしてからクルーズの初日まで一度も実際班のメンバーで集まる機会がないまま作業を進めなければならなかったなど、グループワークを進めていく上で障害となるのがいくつかあったが、そうした場合にどのように作業を進めたらよいか学ぶこともできたのでいい経験になった。

10. 私は5月1日の神戸港クルーズに行けなかったこともあり、積極的に事前準備に関われなかったのが申し訳なく、少し後悔が残った。だが、他の大学の人とグループになってプレゼンを作り上げるという機会はあまりないので、大学別の個性を感じることもできて良かった。



11. 普段は閉鎖的になりがちなゼミでの活動も違う大学の人と行うことでまた違った心持ちで活動できてとても楽しかった。特に我々の班は仲が良くお互いに意見を言い合える仲であったのでとても刺激的な時間だった。また他の大学の似たようなゼミがどんなことをしているのかを知る機会となって非常に良かった
12. 同志社大学の方とも一緒にチームで準備をする、というのは時間等の制約の中で厳しいところもあったが、各々が互いを思いやりながら、きちんと役割分担をしてこなしていったので、良い発表ができたのだと思う。やはり違う大学の人とかかわることで、普段は聞けない考えが聞けたり、生まれにくいようなアイデアが出てきたりして面白かった。
13. 私たちの班はリーダーがパワーポイントをまとめてくれ、自分が担当する場所を比較的スムーズに進めることができよかった。事前準備をライン上でただけであったため、学生提言が交流につながったとは言い難いが違う大学の見やすいパワーポイントの作りは大変勉強になった。
14. 他大学ということもあり、中々連絡がとれず、スムーズには進まなかった。クルーズまでにあまり打ち合わせができなかったため、クルーズ中に打ち合わせや役

割分担を決めた。しかし、他大学との提言というのは滅多にできないことなので良い経験となった。

15. 違う分野を研究してきた他大学生同士だからこそできる別の視点からの見方や課題のとらえ方、研究の仕方、情報の集め方ができ、新しい気づき生まれ、いい刺激になった。違う価値観の人と意見交換して高めあえるところが大学間交流の意義だと思う。

16. 比較的私の班はスムーズであった。期間が短いと会って話すことができなかつたため、普段のプレゼンを作って発表するのとは違った体験ができた。やはり作業する人しない人の差は生まれたが、グループ内での自分のあり方を見極める練習となった。

17. 他大学の方が率先してリーダーを務めて下さりとても心強かったが、直前まで連携が上手く行かず、パワポの資料をほぼ一人で作るようになってしまったので、メンバー間のコミュニケーション不足が露呈してしまった。発表では、役割分担をして発表を行った。自分の反省として、余計なことまで発表の際に言ってしまう、岐阜を押し出す強みに水を差してしまったので、以後気を付けたい。



18. もっと交流を図ることができれば、どの班もクオリティが高くなったに違いない。あとは、2回生も少しでいいので参加して欲しかった。結局5人班なのに、2人しか活動していない状況が生まれたのは非常に残念だった。今後活かせる経験となった。

19. メールでの意見交換のみだったので連携を撮るのが難しかった。結果的にひとりの人の負担が大きくなってしまった。異なる分野を学んでいる他大学の生徒と同じテーマについて取り組むのは、視点が異なっていて良い経験になった。

20. 正直、私の班は事前準備から発表まで全てうまくいかなかった。他大学の人となかなか連絡がつかず役割分担ができなかったことが一番の原因である。この経験を今後活かしたい。

21. 私たちは静岡県を対象にした観光プランを提言した。静岡にはほとんどいったことが無く、土地勘も皆無だった為、プランはインターネットを利用して作ったものの現実性があるかどうかはあやふやのまま提言に臨んでしまった。現場の情報の重要性を感じた。

(2) 学生提言「テーマ：あなたが外国人に来てもらいたいと思う日本の地域」 についての感想

1. どこも短期間なりにしっかり詰めていたと思う。
2. 今回のテーマの自由裁量の余地が大きかったこともあり、「誰にとって何が望ましいからプランを行うべきなのか」が不透明性なまま、様々なプランが発表されたように思う。自治体の方からすると「そのプランは君が行きたいだけではないか？」という感覚だったのではないだろうか。
3. 各班とも、現在の訪日外国人観光客についてある程度のリサーチをしてターゲットを絞っていたが、かなり似た層がターゲットになっていたので、これからの訪日外国人観光客へのアプローチとしては各班が提言していたようなターゲット層を標的にすることが良いのではないかと思った。また、各班とも目のつけるところが少しずつ違って、今まで知らなかった場所を紹介していたのがとても興味深かった。
4. どの班も素晴らしい発表だったが、良い班は、発表者が身振り手振りをつけながら話すことで、観客が行きたくなるような発表だった。
5. 自分の班もそうだが全体的にレベルは低かったかと思う。もちろんもう少し頑張らなければならなかったという面もある。自分の班も含め何班かは全く大学間での連携ができる環境をうまく作り出せなかった。
6. 他の班はうまく事前にコミュニケーションをとれていたように感じた。というのも、誰がどの部分を発表するかなどがしっかりと決まっておき、スムーズに行っていたからだ。提言で出された地域が外国人観光客に対応できるのかはとても怪しいものだと思った。なぜなら、ネット環境が整っていない地域での観光はとても厳しいと個人的に思っているからだ。
7. 釜山からの乗船のため省略
8. テーマが観光というジャンルに絞られていて、なおかつ県の制限までであるということで、各班同じデータを参考にしているところが多くあった。その点で内容よりもスライドと発表の魅せ方勝負になっていた部分もあると思う。ただ各班具体的な発表の流れはそれぞれ違って、各班の（リーダーの）カラーが現れていた。
9. どの班も魅力的な観光プランを提言していたが、今年はテーマ自体範囲が広く漠然としたものであり、学生にプレゼンの準備、発表を経験させることが目的ではないかと思われ、学生の提言が実際の現場にどれほど反映されるのか疑問に感じた。
10. グループごとにいろいろなプランが出ていて面白かった。グループによって質もそれぞれだった。あの発表を見た自治体の方に得るものが少しでもあれば良いのだが。そういう発表ができなかったとすれば、私自身も反省したい点である。

11. 分析をメインに行っている班やご当地のPRに重きを置いている班などそれぞれの班の個性が光っていて聞いて面白かった。でもやはり仲の良い班は発表にまとまりがあったし、少し軋轢が生じているような班はぐだってしまっていて班の仲の良さは意外にも大切だと感じた。
12. 各班ごとにそれぞれのカラーが強く出ていたように感じた。現状をしっかり分析し、ターゲットを明確にし、それぞれに合ったアプローチで提言していて、聞いてとても勉強になった。データを述べるだけでなく、もっと抑揚をつけて楽しそうに、聞き手に訴えかける話し方をすればもっと提言がよくなるのではないかとも思った。
13. 5班それぞれが個性のある発表で聞いて楽しかった。また、観光地というテーマであったので私自身も興味をもって聞くことができた。しかし聞きづらい班や何が大事なのか分からず結果的に面白くない班もあった。私の班も含めて、観光プランに無理があるところや分析が不十分な班、聞いていて難しすぎる班などもありこれからのゼミの活動にこれらの失敗を生かしていきたいと思った。班の仲の良さや協力的であったかどうかなどが結果に顕著に表れており、良い発表には団結力が不可欠であると改めて感じた。
14. それぞれの班で発表の仕方やパワポに個性があり、聞いて面白かった。上位のチームのプレゼンは本当に行きたくなるようなプレゼンであり、勉強になることが多かった。淡々とプレゼンをするだけではいけないと改めて感じた。
15. データに基づいた提言のところは政策内容に説得力があったが難しいデータ分析を発表に組み込むと、観光プラン提言としては面白みに欠けてしまうと感じた。自分の班は、データ分析が少なく楽しさ重視ではあったが説得力のある提言としては不十分であったと反省している。またプラン考察時に顧客のターゲットをある程度想定はしていたが、発表・スライドにも反映させるべきであった。そのほうが政策提言としての完成度が上がっただろう。
16. 今までの政策提言のテーマと比べ実践的なテーマであり、他の班の発表を聞きながら今後自分が行きたい観光地もチェックした。今回のプレゼンに重要だったのはプランの魅力はもちろんだが、なによりチームワークと堂々としているかである。
17. 回帰分析をしたり、県の観光地についてメインに発表したりと色んな班があったが、結果的にはグループワークが上手く進行した班の発表は、パワポの資料が上



手くまとまっている上にプレゼン力も高く、聞いていて実際に行きたい、と思わせるくらい上手だった。グループワークの大切さを思い知った。

18. はまさんの話では5班は回帰分析を使ったものの、自治体の人に回帰分析を理解してもらえなかったから高い評価を得られなかったらしい。今後、自治体に政策提言をするときはそういったポイントに注意をするべきだなと感じた。

19. 回帰分析を用いて発表していた班があって驚いた。データの分析による提言は単なる思いつきでないところが良いと思った。

20. 発表項目が同じではなかったなので、比較はしにくい。それぞれに良さや味がでていたと思う。観光プランの提言をしたことがなかったので、どこに力を入れるべきか、何に気をつけるべきかなど、アドバイスを受けるべきだった。



21. 他の班の発表を聞いて思ったのは皆思い思いの観光地、または観光プランを考えているなあということだ。画像を駆使したり、データを用いて分析したり様々な提言の方法があるので次回以降機会があれば他班のいいところを吸収したプレゼンをしていきたい。

(3) クルーズ活性化会議プレゼン・パネル討論の感想

1. 自治体ごとの特色が発言の中に詰まってとても参考になった
2. 各港ごとに多種多様な悩みを抱えている点を簡潔に確認でき、日本のクルーズの状況を概観できた点で有益だった。
3. 今まで、クルーズ船は「誘致」ばかりが焦点になっているように思っていたので、「来航数が多く困っている」という港があるという事実には驚愕した。大きく寄港地は3タイプに分けられることがわかり、それぞれに一律でない対策をして行く必要があると感じた。
4. プレゼンでは、各港湾や自治体についての情報を得ることができ、パネル討論では現在抱える問題や課題を把握することができた。パネル討論は、2周ほどしかできなかつたため、そこまで深い議論にはならなかつたように感じた。
5. 一つ一つの発表は簡潔であったが数が多かつた分、長々しかつたという印象が強い。ただ港ごとに抱えている課題や政策が異なることはとても興味深かつた。
6. クルーズ船を各自治体が呼び込もうとしていることはよく分かつたが、その一方で、クルーズを迎えるのは大きなコストがかかるとも聞いて、必ずしもクルーズ船の誘致が利益に直結するものではないのかもしれないと感じた。とはいえ、観光地として人気なところは呼び込もうとしなくてもクルーズ側からくると思う。

7. 釜山からの乗船のため省略
8. クルーズ誘致の段階、寄港船数増加の方策、寄港に追い付かないハード面の整備と各県のクルーズ事情に合わせた討論により、各県が今どのような状況で、担当課はそれをどう考えているのかについてわかりやすく知ることができた。個人的には名古屋港が岸壁のスペースがないということだったので、愛知県内のほかの港を利用するのはどうかと考えた。
9. 各地域ごとの抱えている課題がそれぞれ異なることを知ることができてよかったが、時間的な制約もありパネル討論が各地域の現状報告に留まってしまい、問題解消に向けた議論を期待していたため少し残念だった。
10. 自治体の方のプレゼンの中で一番印象に残ったのは名古屋港である。まさか港内にレジャー施設や駅、インターチェンジがあるとは思っていなかったが、名古屋全体で港を有効に使っていこうという方針なのだろうかと思った。CIQがないとおっしゃっていたが、それだけいろいろな施設があって駐車場もあるなら、場所の使い方が難しいだろうと感じた。港に駐車場があるとは、さすがトヨタのお膝元だなと思った。このように、港によっていろいろな特徴があるのが面白かった。
11. クルーズ振興として港の整備に励んでいる都市やこれからクルーズ振興に力を入れていく発展途上の都市などいろんな種類の都市の意見が聞けて興味深かった。これからはそれぞれの都市単体での活動ではなく寄港地全体が協力してクルーズ振興を盛り上げていく体制を整えればいいと思う。
12. それぞれの自治体の皆さんが、自分たちの港の現状・将来像についてどのように考えているのかという生の声が聞けた、とても貴重で有意義な時間だった。各港によって、現状における問題が全然違って、もちろんそれに対する対策も様々で、聞いていてなるほど、と思うことが本当に多かった。
13. 今回の寄港地ではない横浜や静岡、敦賀等の港についての概要を知ることができてよかった。時間が短かった分、大事なところが集約されていて非常にわかりやすかった。各港、悩みがあり現状を知ることができ面白かった。
14. 自治体の方たちから直接プレゼン、パネル討論していただき、貴重な体験ができた。今まで実際に各地域のクルーズ担当の方に現状を聞くことなどなかったので、初めて知ることばかりで、それぞれの寄港地の抱える悩みなども知れて良かった。
15. 過疎港も過密港もそれぞれに問題を抱えており、行政の方々が限られた財源で出来る限り改善しようとしているのがうかがえた。いままでクルーズ自体に注目し



たことがないため知らなかったのだが、行政のクルーズ担当の方々の話を聞いて日本でこんなにもクルーズが浸透してきており、なおかつ海外からクルーズ寄港地として日本が注目されていることに驚いた。

16. 実際に寄港地の港の整備環境を見学してから説明を聞くのでは見方が違った。私がクルーズに乗る前の意識としてもっと整備されている状況だと考えていた。クルーズでもたらされる収益と港の整備にかかるコストを十分考慮した上でのしっかりとしたプラン設計が必要である。

17. 学生のプレゼンと比べるとややお堅い話ではあったが、横浜・金沢・博多のように港のキャパシティに悩んでいる自治体から敦賀のように如何にクルーズを呼び込むか悩んでいる自治体もあり、各自治体の現状を知れて勉強になった。



18. 時間がなさすぎて自治体の方達は話し足りない感があった。僕ももっと話を聞きたかった。しかし、色んな自治体の共通点・相違点を学ぶことができたので有意義な時間だったと思う。（むしろ、班ごとに自治体の人と話した交流会の方が深い話を聞くことができたので個人的には面白かった。）

19. 港によって抱えている問題が大きく異なっていたのが興味深かった。
20. プレゼンはとても分かりやすく、それぞれの港が抱える問題を知ることができた。ただ、クルーズや地域活性化を専門としていないので、せっかく発表して下さったのに当事者意識を持って聞くことができなかったのが申し訳ないと思う。
21. パネル討論では自治体の方々が他の自治体の人に対して自分たちの港の魅力や逆にいまひとつ弱い点などを発表し、意見をもらったり、これからのクルーズ招致に活かしていこうとしていてますますこれからのクルーズ振興が楽しみだと思った。

(4) スマートクルーズアカデミー内容全般について(学生提言大会、自治体との交流会、フォーマルナイト、夜の交流会など)についての感想と今後の要望

1. 前回よりも課題学習の時間が多かった気がする。もう少し自由時間にあててもよかったのではないか。
2. 自治体の方との交流会は、あまり政策や港湾の話はできず終始懇親のための世間話(時間を過ごすための会話であって生産性がない話)をするに留まっていた班

が多数であったようであり、有意義には思えなかった。船内でイベントも行われている時間帯でもあり、自治体の方を学生の他愛無い話に拘束するのも申し訳ない。

3. 自治体の方との交流会がとてもリアルな意見を聞けて、興味深かった。もう少し他の自治体の方の話も聞きたかったが、博多港の方と話せたことで、クルーズ寄港「過剰」の現実を垣間見ることができたように思う。もう少し、このように直接自治体の方と話せる時間があると良いと思う。
4. スマートクルーズアカデミーの提言大会については、上記の通り連携がうまくいかず納得のいく内容にはならなかった。自治体側の方との交流では、現場の生の声を聞くことができ、とても貴重な経験だった。
5. 去年との違いがあまりにも大きく、船自体に関しては残念な思いもあったが今年は寄港地重視のクルーズでありクルーズの中でも様々な形態があることを身をもって体験することができた点はとてもよかった。もしコスタに乗らなければ、私のクルーズの印象がマリナーのようなもののみになっていたかと思う。こういったことによりクルーズ自体の課題や問題点などに関する視野も大きく広がった。ただ来年は、いろいろなタイプの船という意味でも、違ったタイプのクルーズに二回生を乗せてあげていただきたいと強く思った。
6. 自治体との交流会の時に、横浜と名古屋の職員だったが、クルーズ船が必ずしも利益に直結するものではないという話も聞いた。学生側からの提言は大都市などが除外されていたため、実現可能性という点がやや疑問に感じた。
7. 釜山からの乗船のため省略
8. 提言大会については、クルーズ船で過ごしているだけでは親交を深められなかったであろう他大の学生とも交流できたという点で有意義だった。自治体との交流会は、話す相手が固定されてしまうと、本来話したい相手と話せない場合もあるので、メンバーを固定するのではなく、話す相手を流動的に変えてみるのも面白いと感じた。
9. 学生提言大会は他のグループのプレゼンを聞きながら疑問に思ったことがいくつかあったので、質疑応答の時間があってもよいと感じた。また自治体の方との交流会では、興味深いお話をして頂いたり、意見交換をしたりと有意義な時間を過ごすことができたが、ずっと席が固定されていたため、ひとつの自治体の方としか交流することができなかった。各自治体ごとに抱えている課題も異なるため、席移動などを行って、できるだけ多くの自治体の方と交流できるようにしたほうがよいと思った。



10. 普段大学では学ばないようなことを、大学の先生ではない人と交流しながら学ぶことができた。私自身、あまり港湾に関する知識がなかったので専門的な話は全くできなかったが、自治体の方と雑談をしながら公務員という職業についていろいろと聞くことができたし、港湾についての知識も少し身に着いた。

11. 普段はあまり接する機会のない自治体の人とフランクに接する機会があったためになった。いろいろな人の話を聞いて感じたのはどの自治体の人もやっぱり自分の自治体が大好きであり、自分の自治体のことを第一に考えているということである。そうやって自身の自治体の活性化に生きがいを感じることは素敵なことだなあと心底思った。

12. 自治体の方との交流会では、福井県の抱える問題や取り組みなど、普通なかなか聞けない職員さんの生の声が聞けてとても貴重だった。学生だけでなく、自治体の方ともたくさん交流できたのが今回のスマートクルーズアカデミーの一番の収穫だと思う。そのため夜の交流会等は大事だが、体調管理も大事だと思った。



13. 自治体の方との交流会は、一方的に話されることが多く、聞きたいことがあまり聞けず有意義な時間とは言い難かった。いろいろな場所から自治体の方々が来られていたのでローテーションをするなどもっと多く方と話せたらよかったですと残念に感じた。

14. 学生提言大会は、パワポ提出期間をもう少し長くする方がよいと思った。自治体との交流会は、なかなか体験できないことだけど、非常に緊張した空間であり、楽しく会話することはできなかった。非常に時間も長かったので、もう少しラフな感じで会話できる空間にしたらよいと思う。フォーマルナイトや夜の交流会は非常に楽しい時間であった。

15. 夜のテーマ型イベントは非常に楽しかったし、非日常だからこそできることが多くてぜひまた参加したいものばかりだった。他大学や自治体といった普段なかなか関わるできない方々と交流するいいきっかけになった。自治体との交流会は今一つ楽しめなかった。やはり改まってしまい場の空気が堅かったので積極的に話しかけ交流しづらかった。せっかく来てくださった方々が比較的若い方であっただけに、もっと話せたら会話が弾んだだろうと若干の後悔が否めない。時間だけがだらだらすぎ、沈黙の時間もあつた。もっと時間を短時間に決めて、食事の時間（カフェくらい和やかでくれた方がいい）に行きたい。

16. 自治体の方とあんなにフラットにお話する機会は普段なら無く有意義であった。しかし、夜の交流会はお互いに緊張した中で話をしないとイケないという雰囲気

であったのが少しもったいないと感じた。なにか取っつきやすい軽め的话题を用意しておく必要があった。

17. 普段大学で授業を受けるだけでは味わえない、自治体の方々と数日間一緒に過ごして色んな寄港地を巡って活性化について考える機会を手にすることができ、普段は聞けないような事情まで聞けて楽しかったとともに勉強になった。また、話しているうちに学生と自治体では考える目線が違うんだな、と感じた。
18. 全体として、とても楽しくかつとても有意義な5泊6日だった。自治体の交流は本当に楽しくて、自分の知らなかった世界を知ることができた。そして、俄然、問題発見とその解決への政策をつくることに対してやる気が湧いてきた。機会があれば来年も乗りたいなと強く思った。
19. 普段交流できない他大学や自治体の人と話せる機会ができてよかった。
20. 今回クルーズに行かせていただいたことは本当によい経験になったし、いい思い出になった。しかし、私はインフラや地域活性化にそれほど興味がないので、自治体との交流会で話についていけないことが多く、その場にいづらかった。それは自治体の人にも申し訳ないし、もっと興味のある学生を連れてきた方が相互にいいと思う。
21. フォーマルナイトがスマートクルーズアカデミーにおいて一番印象に残っている。普段スーツを着て大人たちと会話をしたり、お酒を飲むことは無いので少し背伸びをしたような心地になった。自治体の方にもご馳走になり大変感謝している。楽しかった。


第5部 <地域活性化・クルーズ振興>

(1) 地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割についての感想（国・自治体政策のあり方など）

1. クルーズ観光客が細かいことを気にせず楽しめるには？クルーズ会社に寄港地として選んでもらうには？という視点で環境を整備することが大切だと思った。その点で交通手段の整備は重要であるし、今回であればそれが一番できている博多、金沢市に学ぶのが一番いいと思う。
2. クルーズ振興が地域にもたらす経済効果は大きく、今後も各港で客船誘致を積極的に応じていくべきだと思う。金沢県庁のクルーズ担当の方の話では、県庁内のクルーズ班は4人と少人数体制で実に多忙らしい。他の自治体の体制は不明であるが、多くの自治体も予算や人手に余剰がない状態であるのは承知だが、クルーズによる観光業活性化の観点からは、追加的人员などを行うのも有意義かもしれない。
3. クルーズが一度寄港するだけで経済効果がかなり大きいという話を聞いたが、実際に多くの寄港地を訪れるとそれぞれの港でのクルーズに関わる人的投資は少ないように感じた。人口減少が進む特に地方の港では、交流人口拡大に役立ち、さらには経済活性化への効果も期待できるクルーズについてはもっと力を入れるべきであると思う。施設整備を進めることももちろん大事だが、それよりもまずはクルーズ振興に取り組む職員の熱意と市民の理解を促進することが重要であるようにも感じる。
4. クルーズ誘致に際し、課題や問題は舞鶴・境港などの地方港湾と博多や横浜などの重要港湾では大きく現状が異なることを理解した。博多・横浜などキャパオーバーな港では周辺港湾との連携を推し進める必要がある一方、舞鶴・境港などは港湾の利点や観光資源を前面に押し出しクルーズ誘致を促進する必要がある。
5. 福岡においては、クルーズの受入が限界になっていることを考えると、実際に今後のクルーズ振興がプラスの効果を与えていくのかが気になる。クルーズが活性化に効果があることを前提として考えるならば、港湾の整備だけでなく、観光地の整備もどのように行っていくかが問われているのではないかと思う。
6. クルーズの誘致をして、クルーズ船に来てもらうということ自体が何か利益を生



み出すものではないのだと感じた。むしろすでに観光地として成立している地域にクルーズ船が来ることにより、さらに地域の真の価値が見直され、活性化する良い機会になるということではないかと思う。なので、クルーズの誘致のまえに観光地としての魅力を挙げることに専念するべきなのではないかと思う。

7. クルーズに参加する前の私がそうであったように、クルーズ旅行は年配の方向けであるというイメージを持っているひとが大勢いると思うので、今後若年層にクルーズの魅力を伝えていくことがクルーズ参加者の増加につながり、さらに規模の大きいクルーズ客船誘致が可能になるのではないかと思う。SNSなどを使って、クルーズ船でのイベント情報などを発信することによって、イメージも変わるのではないかと思う。また港湾は、貿易の窓口としてだけでなく、観光客の窓口でもあることを意識した取り組みが必要であると感じた。港湾にすべての港湾利用者が快適に利用できる施設や設備を整備して、利用回数を増やし、リピート利用してもらえるようにすれば、地域活性化にも大きく貢献するのではないか。
8. 観光客増加因子としてのクルーズに目を向けるのは、日本が海に囲まれた島国で、無数に港がある点、また陸上交通機関に恵まれていない観光地に観光客が流れるという点で有意義だと考える。よって寄港地の自治体としては、海からやってくる観光客に対して土地を挙げて歓迎する、またハードとしての港湾の整備をより進めるべきだと考える。
9. 日本においてクルーズ産業自体黎明期だということもあり、各自治体はまだクルーズ産業を地域活性化に役立てるビジネスモデルを確立できていないように感じた。クルーズ客はその地域に宿泊することはなく、また比較的短時間の滞在となるため、日帰り観光客から地方が恩恵を得られない構造と似ている。一方で、クルーズは各寄港地の見本市のようなものであり、短い滞在時間の中で、地域の魅力を伝えることができればクルーズ客が今度は普通の旅行でその地域を再び訪れるといったことにつながる。このクルーズの見本市のような性格は主要観光地に比べ、潜在的な需要を多く抱える地方にとっては魅力的なものである。そして港湾の整備はより多くのクルーズ船に寄港してもらい、より多くの人に寄港地を見もらうために必要不可欠である。
10. 博多港や横浜港のようにクルーズ船がたくさん来るためにキャパシティを増やそうとしている港もあれば、まずはクルーズ船に来てもらうために広報を重視する港もあり、港湾の政策も一筋縄ではいかないであろうと感じた。クルーズ船に寄港してもらい、という目的があるとき、寄港してもらえるかどうかはコース

次第ではあるが、周辺の他の港との取り合いになってしまうのは避けられない。日本全体としてクルーズ振興のために、人気の寄港地のキャパシティを増やすのか、それとも、観光資源のポテンシャルを秘めた、新たな港を広めていくのか、どちらがこれからの国内におけるクルーズ振興にいいのだろうかと思った。

11. まだまだ発展途上の日本におけるクルーズビジネスは今後どんどん成長していくと思う。そのため今各地の港湾はクルーズの波に乗れるかのターニングポイントに立たされていると思う。ポイントとなるのはそれぞれの地域性をうまくクルーズ業界にアピールできるかで、そのためには国や地方自治体の支援も必要となるだろうと思う。まずは顧客のニーズをしっかりと把握し、綿密な自己分析を行うことが重要であると思う。

12. 周囲を海に囲まれているという日本の国土の特徴を活かして、もっと地方創生の手段としてクルーズを振興する必要があると今回の経験で初めて強く感じた。そのためには、今まで貨物輸送中心だった港を、クルーズ客のための施設として整備を進めていく必要がある。さらにそのためには、確実にクルーズの時代がやっ



- てくるという期待がないとだめなので、国も一丸となって、クルーズを推し進める施策をとっていかなくてはならない。
13. 港のキャパに合わない大型客船のためや、港のスペースの問題のために断るといふことは非常にもったいない。しかし、安易に莫大な費用をかけ施設を増設する経済的な面や今後のクルーズの需要の面からしても絶対に増え続けるとは言えないのでよくない。博多港のように他の寄港地に分散させたり、経済便益を考えたうえでの増築をすることが必須である。また、クルーズ客にお金を使ってもらおうというだけの観光ではなく、良さを知ってもらったり、その土地の文化を知ってもらおうという視点も継続的で地域活性化のための重要である。
14. 大きな船になればなるほど地域活性化にもなるだろうが、それぞれの港湾によって規模も異なり、それが一つの悩みでもあることがよく分かった。しかし、クルーズが注目されている今、寄港地の活性化も必要であると改めて思う。
15. クルーズ船の規模によって集客量も大きく左右されるためか、自治体の方々も客船規模を気にしておられた。大型船を受け入れるにはそれなりの規模の港湾が必要である。しかし港湾を改築するのも新設するのもそうそう容易なことではない。地域活性化のためにも大型船を受け入れたいが受け入れ態勢がなかなか整わないことにあたまを抱えているクルーズ関係者の方々が印象的であった。
16. どの自治体も予算には限りがあるし、多くは割けないと述べていた。したがって、

クルーズでもたらされる収益と港の整備にかかるコストを十分考慮した上で、のしかりとしたプラン設計が重要である。のしかりとした目標を実現可能なステップで着実に進めていく必要がある。

17. クルーズに乗ってから、日本におけるクルーズの需要の高まりと経済効果を知り、何故自治体がこれほどクルーズ客船を誘致しようとしているのかが理解できた。個人的に、クルーズというものがまだ一般的にはそれほどメジャーになっていないように感じるので、如何に多くの人に魅力を発信して船に乗ってもらう・クルーズ客に観光地でお金を使ってもらうかがこれからの課題だな、と感じた。



18. 静岡県の港利用の優先権を与えるというのは素晴らしいと思った。私は、さらに優先権を競売にかけるか、株式のように出資額の大きい船社順に良い優先権を与えるのが良いのではないかと考えた。また、日本海側は中国からの地理的条件で、もはや博多港に勝てそうにはないが、太平洋側ならアメリカからのクルーズを誘致しやすいのではないかなと考えた。
19. たくさんの客を集めるには規模の大きい船を呼ぶ必要があるが、港が小さかったり、橋があるため高さ制限があったりとどの港も問題を抱えていた。日本の労働形態が日本でクルーズが浸透していない原因だと知ることができた。
20. 各港でクルーズ船受け入れ数や港の規模で競争するのではなく、お互いに知識や技術を共有し相互に高めていくことが大切であり、それが日本の経済発展につながると思う。地域活性化のために港が観光地化されることはいいこと、のように思う人がほとんどだと思うが、従来の町の雰囲気壊してほしくない住民もいると思うので、そこが観光地化する難点である。
21. 日本人のクルーズ旅行というのはまだまだ発展途上といえ、たくさんの消費者を確保できる状態とはまだいえないと思う。そのため、外国人むけの観光プラン、例えば日本食であったり、日本の文化を学ぶ機会を与えればもっとたくさんの観光客が日本にきてクルーズ振興が国内外問わず発展していくのではないかと私は考える。

(2) クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしむけての若い世代からの視点)

1. 寄港地の選定という意味では今回はとてもよかったです、船内で客が楽しめるには？という視点を盛り込む必要がある気がします。無料で楽しめる場所が、船内に設備が少ない場合には、イベントを多く盛り込むなどの工夫が必要で、

ソフト面での対応はできるかな～と思います。

2. インターネット広告やSNSなど、若年層への波及力の高い広告戦略の増強は一つの案かもしれない。他には、船内の設備、アクティビティ、イベント等について、HP上に写真や映像等を添えて詳しく掲載するのも地道にも好手と思う。船内での生活をイメージの一助となり、クルーズの存在を知った後に実際に申し込むアクションに繋がりがやすくなるのではないだろうか。
3. クルーズ振興については、もちろん若い人に乗ってもらい、SNSなどで周知をしてもらったり、社会的影響の強い人物によるクルーズ船のTVを放映してもらうなどというのは有効な戦略であると思う。また、クルーズに実際に乗る前にはやはり「フェリーと何が違うの」と思ってしまう人が多いのも事実なので、HP上などでもっとクルーズ船内部の写真やイベントなどの紹介もして、いかに「非日常なのか」を発信することも一つの手だと思う。
4. 今回乗船させていただいたコスタさんは、値段的な面もあり、前回乗船したマリナーよりも比較的若い人が多いように感じ、新たな層の開拓を行っているように感じた。しかし、アカデミーのような機会がなければ若い世代は乗る機会がなかなかないため、若い人に向けた広告展開（卒業旅行パッケージやインスタでの広告など）が重要になってくるのではないかなと思う
5. クルーズの意義としては、需要が比較的少ない観光地にも足を運んでもらえること、そして気軽に海外を味わえることができることが挙げられるかと思う。クルーズ振興の在り方については、人気の観光地を巡るクルーズは値段が高くても満船になることを考えると、やはり寄港地の魅力向上は重要だと思う。また船内におけるアクティビティも充実させなければまた乗りたい、誰かに勧めたいという気持ちにはならないので船内環境の整備にも力を入れていただきたい。
6. 若い世代がクルーズに行ける時代ができるということ自体に社会的な意義があるように思う。今回、クルーズ中に若い人にはほとんど会わず、大半が高齢者だったので、本当にクルーズの船内を楽しめる世代が来れていないというのはもったいないと思った。若い世代は行きたいとしても長期間の休みが取れないという障壁があるので、それが解消できれば、クルーズの需要は伸びるのではないかなと思う。
7. クルーズ船の内部の施設を知らない人が多いと思うので、寄港地にとまっている数時間の間に、クルーズに参加していない人でも船内の施設を利用できる、ある



いはイベントに参加できるような機会を増やせれば、次回クルーズに参加しようと思う人が増えるのではないかと思う。

8. クルーズは今までの日本に無かった、目的地までの移動すらも観光にするという性質を持ち、その点で日本の新たな旅行形態、観光需要を呼び起こすものであると考える。その性質ゆえに若い世代が気軽に利用できるものでもないで、まずは若い世代の特定の一部にフォーカスした施策を打ち出していくのも一つの方策であると考え。
9. 今後のクルーズ産業の一層の発展は、地域振興の起爆剤となるポテンシャルを秘めていると感じたが、クルーズ産業の振興のためにはクルーズに対するさらなる需要を喚起し、日本に就航するクルーズ客船の回数を増やす必要がある。新たな需要を喚起する上で最大の障壁となっているのは、多くの日本人がクルーズは値段的にハードルが高いと感じていることにあると思う。実際に多くの友人はクルーズは最低でも一泊5万はしそうだといっていた。しかしながら実際には一泊一万円ちょっとからのプランもあり、多くの人々のイメージよりもお手ごろであろう。よって今後のクルーズ振興の鍵は、いかに人々のクルーズに対する高くて手が出せないという意識を変えていけるかであると思う。
10. 日本国内では、どうしても「クルーズ＝豪華客船、お金と時間がある人が乗るもの」という認識が強いと思う。今後若い人向けに市場拡大を図っていくには、仕事との折り合いをいかにつけるかや、PRの仕方にかかってくると思った。修学旅行をクルーズにするというのでもいいと思った。子どもが家族にその良さを伝えれば今の若い世代にもクルーズ振興ができるし、後々の若者世代にもクルーズ振興ができる。
11. 正直、クルーズなどというと若者からしたら遠い存在でクルーズに乗るなら普通に旅行に行った方がいいと大抵の若者は思うと思う。それを解消するにはもっとクルーズを身近に感じてもらうことが必要だと思う。例えばクルーズの上で人気アーティストのライブをやったり、1日乗船体験をしたりして若い世代にも関心を持ってもらうことが重要だと思う。
12. 若者とくに大学生をターゲットにしていくという施策も考えられる。なぜなら、年配の方ほどではないが、高校までと比べて時間があり、アルバイト等でお金を稼ぐことができるという意味で、時間とお金に多少なりとも余裕があるといえるからだ。この層をクルーズに取り込むなら、やはり寄港地近くに若者に人気となる魅力的なスポットを開拓する必要があると考える。新たに作り出すことが難しくても、少し「SNS映え」するように改良するだけでも変わってくると思う。それ



に加え、船内の内装も少しこの層寄りのデザイン等にするなどの工夫が考えられる。

13. 若者視点のクルーズはやはり高級な印象である。クルーズの良さを知らず、なるべく安く旅を楽しみたいと思っている人は船という交通手段は最も選びそうにない。単なる交通手段ではなく移動中も楽しめる非現実的な空間であることを若者にも知ってもらわないといけない。何かのご褒美やお祝い、記念日にはぴったりのクルーズ。若者にも良さを知ってもらうためにはSNS等を利用し、若者のニーズに合った値段設定やスケジュールにすることが必要不可欠である。私たち若者が持っているクルーズに対する高いだけじゃない？という間違っただけ印象を変えないといけない。
14. 若者からすると、クルーズというと高級なイメージで手を出せない感じだ。旅行の話でクルーズという言葉が出たのは一度もない。しかし、今回実際に自分でクルーズを体験してみて、若者でも十分雰囲気についていけて、楽しむことができると身を持って体験した。若者が気軽に行けるようにするのも課題だと思う。
15. クルーズは飛行機や車では通りすぎてしまいがちな海の日本を味わえるいい機会になる。高級で堅苦しいイメージがあったが、カジュアルもゴージャスも味わえるし、飛行機などとは違い、移動中も楽しめる。楽しみながら世界各地を旅行できるところがクルーズの大きな魅力であると感じた。若者には敷居が高いイメージで遠慮されがちだが、若者にはSNS等の伝える力がある。クルーズ振興に若者の発信力は大きく影響するだろう。そのためにも若者にもっとクルーズを身近に感じてもらう必要がある。
16. クルーズから帰ってきて友人にどんなことをしたなど話したとき一番反応が良かったのは食べたものの写真と非日常的な船内の写真を見せた時であったと記憶している。食とは男女区別なく関心のある事柄である。最近では食べることをメインとしたバスツアーなど人気があるし、非日常空間であればテーマパークなどは昔から人気がある。二つを併せ持つクルーズのニーズはある。あとはどう広めるかにかかるといえる。
17. 少子高齢化社会において、比較的時間に余裕のある高齢者をターゲットとした長期のクルーズプランを作成することは勿論であるが、それだけでなく、未来のリピーターをつくるべくもう少し若者でも手の届くような低価格帯のクルーズプランを作成してみたらいいのではないかと考えた。若者の中でも、大学生であれば金はないものの時間はあるので、社会人に比べてクルーズに乗船しやすいので



はないか。

18. やはりクルーズの旅は時間を要する。日本であくせく働く社会人には不向きな旅行形態だと思う。なので働き方が改革されない限り、学生をターゲットにするのは良いのではないかと思った。フォーマルナイトやダンスパーティーを通じて大人の仲間入りをするのはすごく楽しかった。「学割」や「ドレス・スーツの貸し出し」を自治体が行えば、学生にとっての敷居は低くなるような気がする。(ドレスとかの用意が意外にしんどい)
19. クルーズ自体が日本人にとって身近なものでないので一度乗ってもらわないと魅力を伝えることができない。学生を対象に安価で参加できるようにすれば魅力が発信されると思う。
20. 世間には「クルーズはお金持ちの特権」という考え方が根付いていると思う。その考えを変えていくために、普通に飛行機によって観光地へ行った時の総費用(ご飯代や移動代など全てを含む)とクルーズで行った時の総費用を照らし合わせ、トータルで見たときにクルーズはそれほど高くないことを人々に知ってもらうべきだと思う。
21. 私たちのような大学生がゼミに活動の一環としてや、サークルの卒業旅行などに利用してもっともっとクルーズの魅力を発信していくべきだと思う。クルーズに乗る機会がなければなかなか興味も持ちにくいと思うのでSNS等でより発信していくべきだと私は考える。



(3) クルーズ全般への感想：将来に向けての感想、上記の項目に該当しなかった部分への感想など

1. 基本的にサービスに問題は無かったが、より徹底して欲しい部分も気づいた。日本において、クルーズが新たなステージにステップアップするためにも、細かな部分にへの配慮を含めた、クルーズ船社のガバナンスの強化に期待したい。
2. 聞いたような話であるが、日本でのクルーズ振興は、本質的には労働雇用の改革の進展なしには成し得ない。したがって、クルーズへの若年世代へのアプローチ戦略は、その難題解決とともにじっくりと取り組むべきであろう。また、それ以上に、日本の港で下船した訪日外国人に、如何に港湾近辺で消費を行わせるかの議論が重要であり、各港は積極的にクルーズ会社に働きかけてほしいと思う。
3. クルーズ船の話をする時、たいていの人には「すごい！いつかは乗ってみたいなあ」という反応を返す。「いつかは」に込められた意味としては、「今

は休む時間取れないんだ」「今はお金がないんだよね」というようなことがほとんどであり、やはりそもそもまとまった休みの取れないことは問題であるが、今でも「高価なもの」というイメージがつきものなのはいくらかクルーズ船側からアプローチできるはずである。一泊交通費食費込み1万円～というのは正直、そこまで高いとは思わない。ラグジュアリーなイメージと高価でないというイメージは相反するものではあるが、うまく発信して行くことが重要なのではないだろうか。しかし、この超高齢化社会において、若者へクルーズを広めよう、ということも果たして正しいのだろうか。むしろある程度の時間の取れる高齢者に対して、もっと需要を拡大して行くことも戦略の一つだと思う。もっとも、今の時点でもかなり高齢者の乗船割合が高いわけであるが、なかなか自分では遠くまで移動するのが困難であることの高齢者にとって、「移動+宿泊+エンターテインメント」が同時に達成できるクルーズ船は高齢者特有の問題の多くを解決できるポテンシャルを秘めている。まずは一定数の高齢者層という需要を獲得した上で、若者へ広げて行くのでも遅くはないのではないかと。

4. 2年連続でクルーズに乗船させていただき、来年もまた乗りたいと強く感じた。マリナ、コスタときたので次はまた違う船社のクルーズ船に乗り、その違いをレポートしたい。(ダイヤモンドプリンセス希望です。)



5. 今回は、イベントも充実しており、本当に多くの方のご尽力があつてのSCAであることを改めて実感しました。このような貴重な経験を多くできる環境にいることに慣れずにこれからも謙虚に物事に取り掛かろうと思います。これからのSCAのさらなる発展を願っています。
6. クルーズに乗る経験が初めてだったが、乗ってみるとそれほど身構えるようなものでもなかったなと感じた。確かに高級感がかなりあったが、実際の値段は一般人に出せないようなものでは決してないので、どうしてこれほど需要が低いかが理解できなかった。時間的な都合の方が金銭的な問題よりも大きいのだろうと感じた。
7. 今回はクルーズ船に乗ること自体初めてで、少し緊張していたが、想像以上に豪華な船内と豊富なイベントに圧巻された。このクルーズのすばらしさをもっと多くの人に知ってもらい、クルーズがもっと普及すればよいと思う。今回は釜山からの乗船で、学生提言やパネルディスカッションに参加できなかったのが残念だったので、次回は初日から参加して、そうしたアカデミックなイベントにも参加したい。

8. 5泊6日というクルーズ旅行の長さを甘く見ていたので、最終日あたりになると着る服がなくなりかけて少し焦りを感じた。クルーズ船の大きさは個人的に満足だったが、担当の方の話を聞くとさらに大きなクルーズ船もあり、船社によっても船内の様子が違うとのことだったので、次にクルーズに乗れることがあればその違いも感じてみたいと思う。
9. 今回のクルーズで、生まれ故郷（鳥取）を一人の観光客として訪れる、外部の人間としての目線から地元を視察するという普段の生活ではしないであろう貴重な経験をすることができた。その中で自分が今まで知らなかった地元の良さ、改善点に気づくことができ、また他の日本海側の寄港地と地元を比較するといった地元の地域振興を考える上でもとても有意義な時間を過ごせた。
10. 思っていたより忙しく、思っていたより断然楽しいクルーズ旅行だった。クルーズ中、寄港地も船内も楽しく、普通の生活に戻った時に大きなギャップを感じた。来年のクルーズが今から楽しみである。
11. 今回クルーズに乗って普段できないような体験をたくさんしてゼミ生とも仲良くなって一生の思い出となるような六日間だった。来年も必ず参加したいと思うし、もっと自治体の人や他の大学の人にも積極的に声をかけて、自分の中にない知見や発想を得られる船旅にしたいと思った。
12. 全体的にスケジュールが詰まりすぎていて、最終日に疲れと船酔いでダウンしてしまい、ホワイトパーティに参加できなかったのは大きな失敗だった。今までクルーズは自分とは縁遠いものだと思っていたが、今回参加して、私たちの年代の人でも十分に楽しめるものであり、また、各自治体の人たちのクルーズにかける思いというものを学んだので、これからは積極的に周りにクルーズを広めていきたいと思う。さらに私自身も、将来のいくつかの場面でまたクルーズを利用したいと思う。
13. 今回のクルーズ中、何度もよい意味の”非日常”を感じた。飛行機や電車の旅では味わうことのできないような私が初めて体験した5泊6日であり有意義な時間となった。毎日のスケジュールがカツカツで何に参加すべきなのかを把握することができず、逃してしまったものも多かったのではないかと思われる。私の家族がクルーズはとても好きそうなので家族、友人に将来的にこの素晴らしさを広めていきたい。
14. 非常に貴重な体験ができた。5泊6日は長いようでとても短かった。一日のスケジュールが過密で寝不足であったが、毎日が楽しかった。たくさんの方との出会いもあり、学生同士の交流もあり、良い思い出となった。



15. 素直に心から楽しめた。一週間が非日常で毎日がイベントづくめで夢の様な時間であった。クルーズのお堅いイメージが一転、身近でエンターテイメントあふれる楽しいものへと変化した。寄港地一か所一か所での滞在時間が短いので仕方ないが、もう少しスケジュールがタイトであったので、もう少しゆっくり楽しめたら嬉しかった。
16. もっと船内新聞を読むなりショーに気を配るべきだった。すこしハードで、全部体験したくて力入れるところセーブすべきところの配分が難しかった。クルーズの魅力は自由度にもあると思う。今回は研修ということで研修の中では十分有意義であったので、個人で行くときにまた新たな魅力が発見できるはずである。
17. 初めての船旅ということで、最初は楽しみ方が分からなかったが、他の旅とは異なり船の中でもアクティビティを楽しめるので最初からもう少し船の中を散策して船の移動を楽しめば良かった、と若干後悔した。しかし、だからこそもう一度是非このようなクルーズにまた乗船し、今度は最初からアクティビティを満喫したいと思った。
18. 楽しかったです。もう一度乗りたいです。また、夕ご飯時に踊りたいです。今度はお金を貯めて、にっぽん丸に乗りたいです。茶室で茶を点てたいです。あとは、今度カジノにチャレンジしたいです。有料のスパにも入ってみたいです。
19. 最高の思い出になった。個人でも行けるように頑張っている企業に就職したい。
20. 今回、スマートクルーズアカデミーに参加させていただき、本当にありがとうございました。田中ゼミに入っていなければ一生クルーズ船に乗ることがなかったと思います。5泊6日という長い時間をゼミ生と共にしたことと今まで離せなかったことを話せる関係が構築されたり、ゼミの現状や問題点に向き合うきっかけとなりました。それはこれからのゼミで生きてくると思います。関係者のみなさま、本当にありがとうございました。
21. 私自身、今回のクルーズアカデミーが人生において必ずや忘れることが出来ないであろう大変楽しく印象に残る経験であった。もし、今後なにか旅行に行く機会があれば、ぜひクルーズを利用したいし、新婚旅行などにも良いんじゃないかと思った。また自分のお金で行くことが出来れば、大学生のうちに行った時に感じたこととはまた別の感情が生まれるのではないかと今からまたクルーズに乗れる日が待ち遠しい限りである。



